

5 福祉・保健について

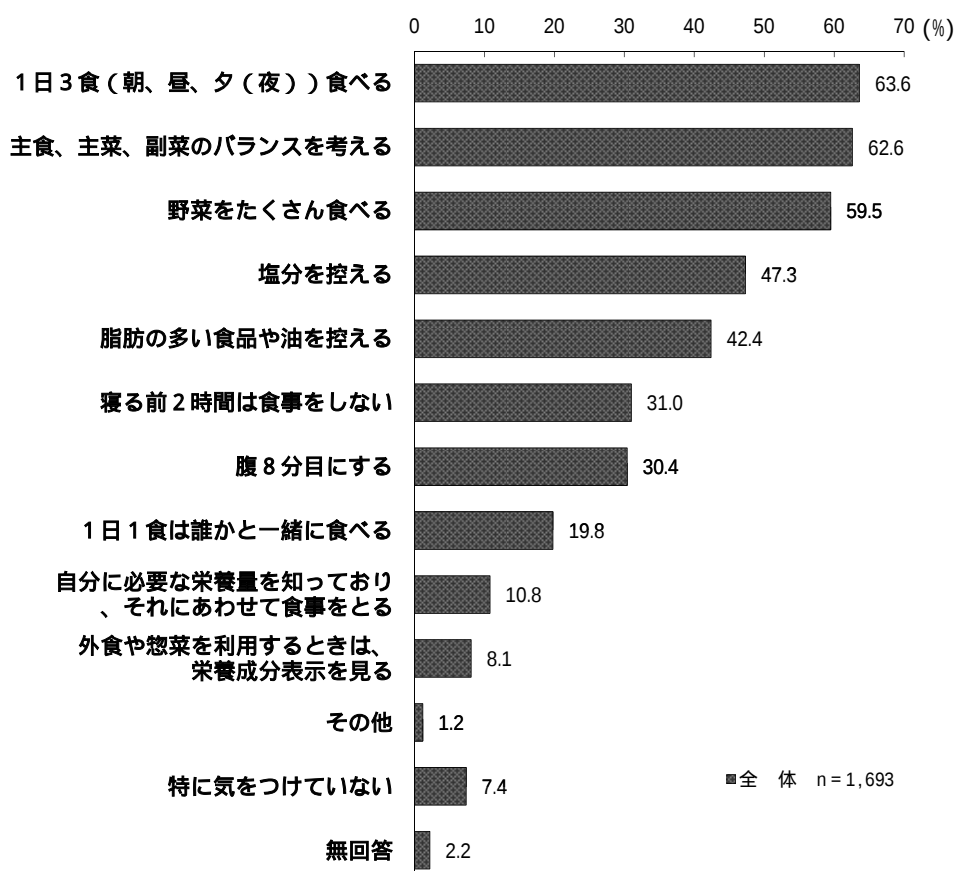
5 - 1 普段の食生活で気をつけていること

「1日3食(朝、昼、夕(夜))食べる」「主食、主菜、副菜のバランスを考える」

「野菜をたくさん食べる」の3項目で6割前後

問 19-1 (食生活)あなたが普段の食生活で気をつけていることは、どれですか。(○はいくつでも)

図表5-1 普段の食生活で気をつけていること(複数回答)



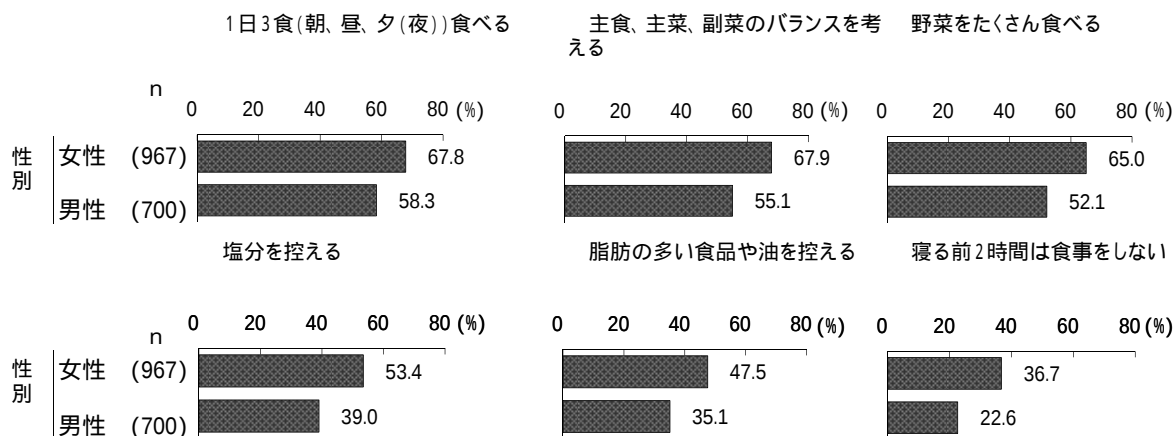
(全体) 上位6項目は以下となる。(図表5-1)

- ・「1日3食(朝、昼、夕(夜))食べる」(63.6%)
- ・「主食、主菜、副菜のバランスを考える」(62.6%)
- ・「野菜をたくさん食べる」(59.5%)
- ・「塩分を控える」(47.3%)
- ・「脂肪の多い食品や油を控える」(42.4%)
- ・「寝る前2時間は食事をしない」(31.0%)

上位6項目について

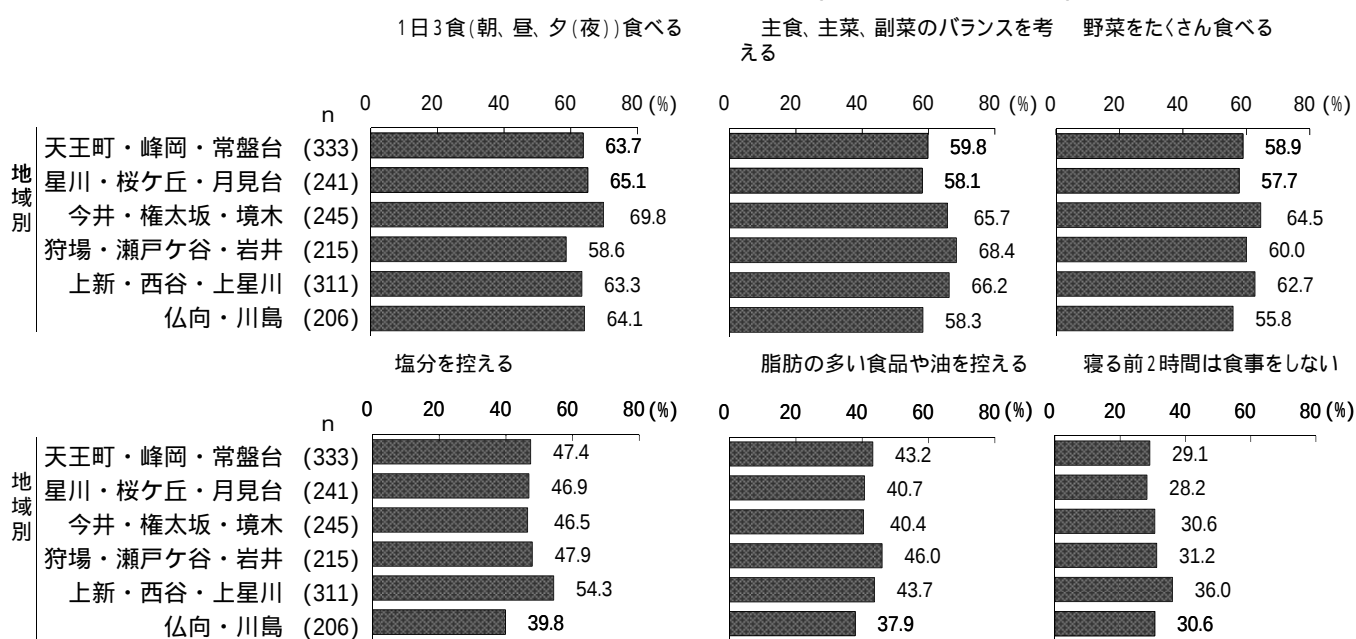
(性別) 上位 6 項目を性別みると、女性が気をつけていて、全ての項目で10ポイント程度高い。(図表5-2)

図表5-2 普段の食生活で気をつけていること（性別、上位6項目）



(地域別) 上位 6 項目を地域別にみて、大きな差はみられない。(図表5-3)

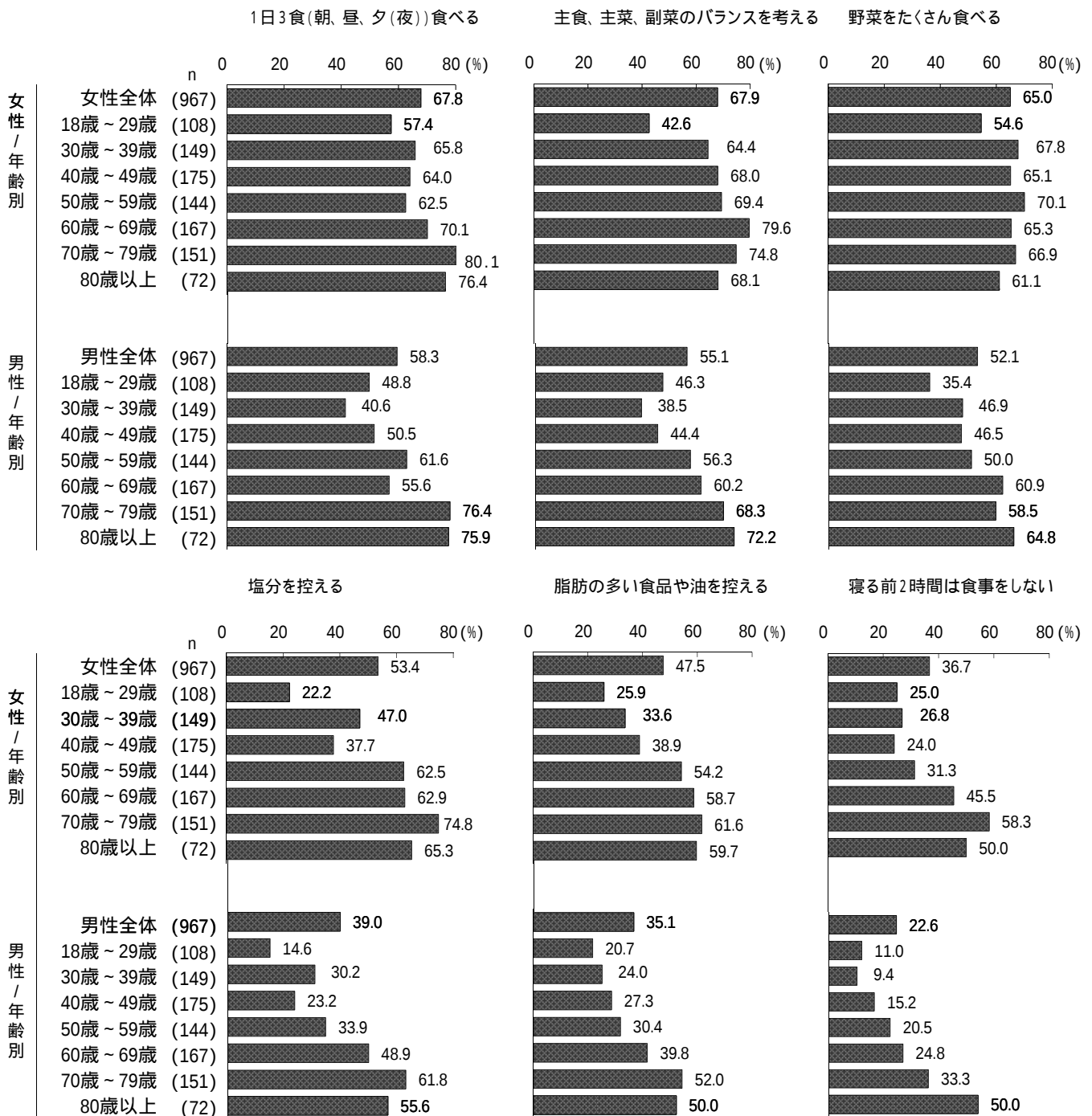
図表5-3 普段の食生活で気をつけていること（地域別、上位6項目）



(性×年齢別) 上位6項目を性別及び年齢別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-4)

- ・「野菜をたくさん食べる」は、男性の18歳～29歳(35.4%)で特に低く、年齢が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。
- ・「塩分を抑える」は、女性18歳～29歳(22.2%)と男性18歳～29歳(14.6%)で特に低い。
- ・「脂肪の多い食品や油を抑える」は、女性18歳～29歳(25.9%)で特に低い。
- ・「寝る前2時間は食事をしない」は、女性70歳～79歳(58.3%)と男性80歳以上(50.0%)で特に高い。

図表5-4 普段の食生活で気をつけていること(性×年齢別、上位6項目)

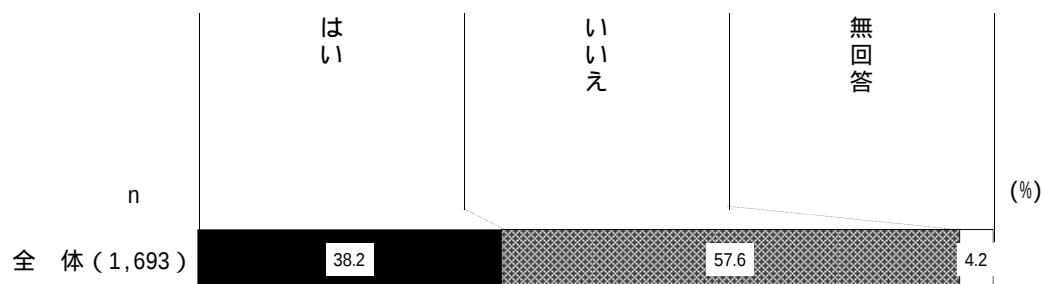


5 - 2 日常的に運動する習慣の有無

日常的に運動する習慣がないと回答した人が5割後半を占める

問 19-2 (運動)あなたは、日常的に運動する習慣がありますか。
(週2回以上かつ1日30分以上運動する習慣が1年以上続いていますか。)(○は1つ)

図表5-5 日常的に運動する習慣の有無



【全体】「いいえ」(日常的に運動する習慣がない)の割合(57.6%)が5割後半を占め、「はい」(日常的に運動する習慣がある)の割合(38.2%)は3割後半を占める。(図表5-5)

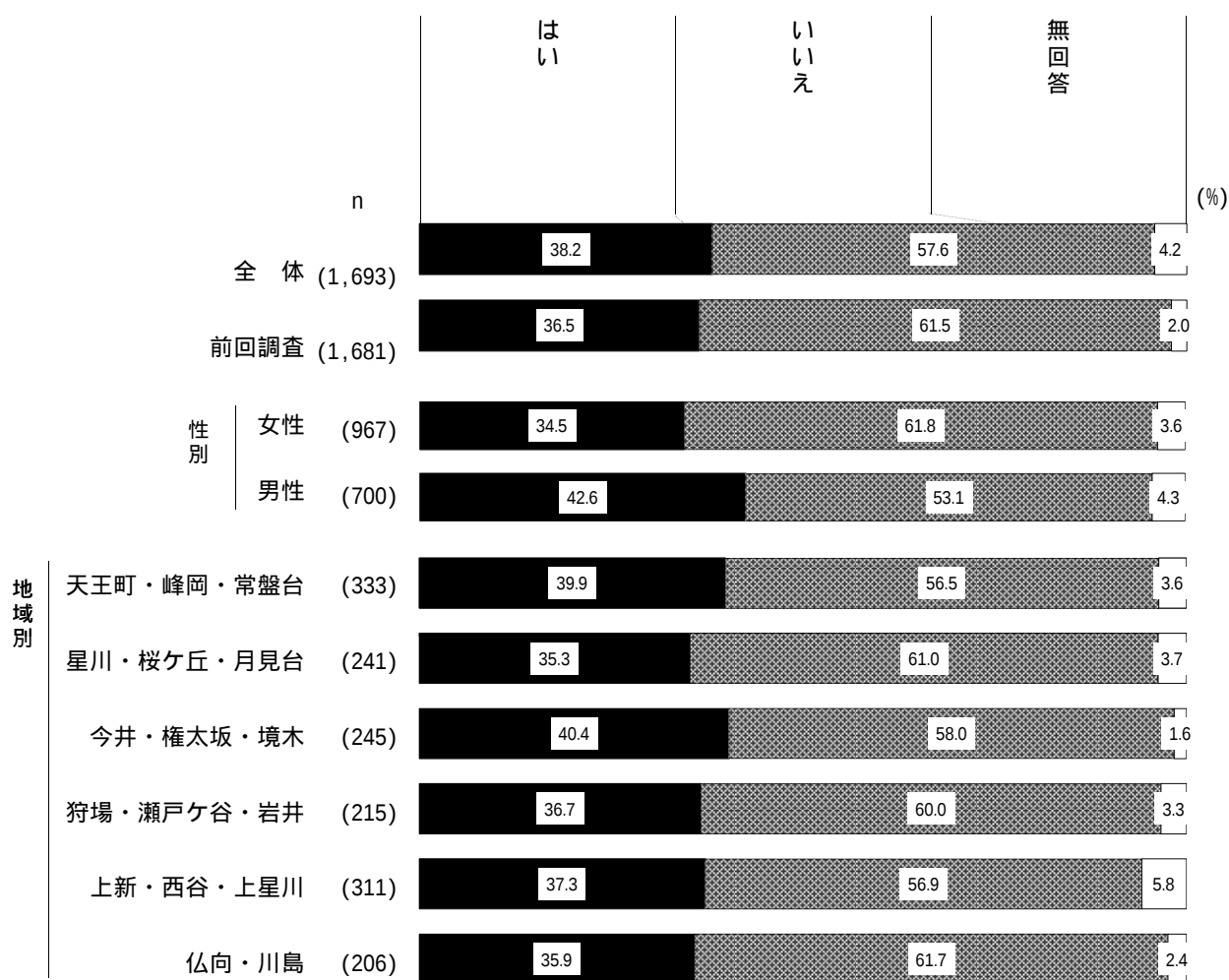
〔前回調査(平成21年度)との比較〕 大きな差はみられない。(図表5-6)

〔性別〕 性別にみて、男性が日常的に運動する習慣がある傾向である。差があるのは以下の箇所となる。
(図表5-6)

- ・「はい」は、男性(42.6%)で女性より8.1ポイント高い。
- ・「いいえ」は、女性(61.8%)で男性より8.7ポイント高い。

〔地域別〕 地域別にみて、大きな差はみられない。(図表5-6)

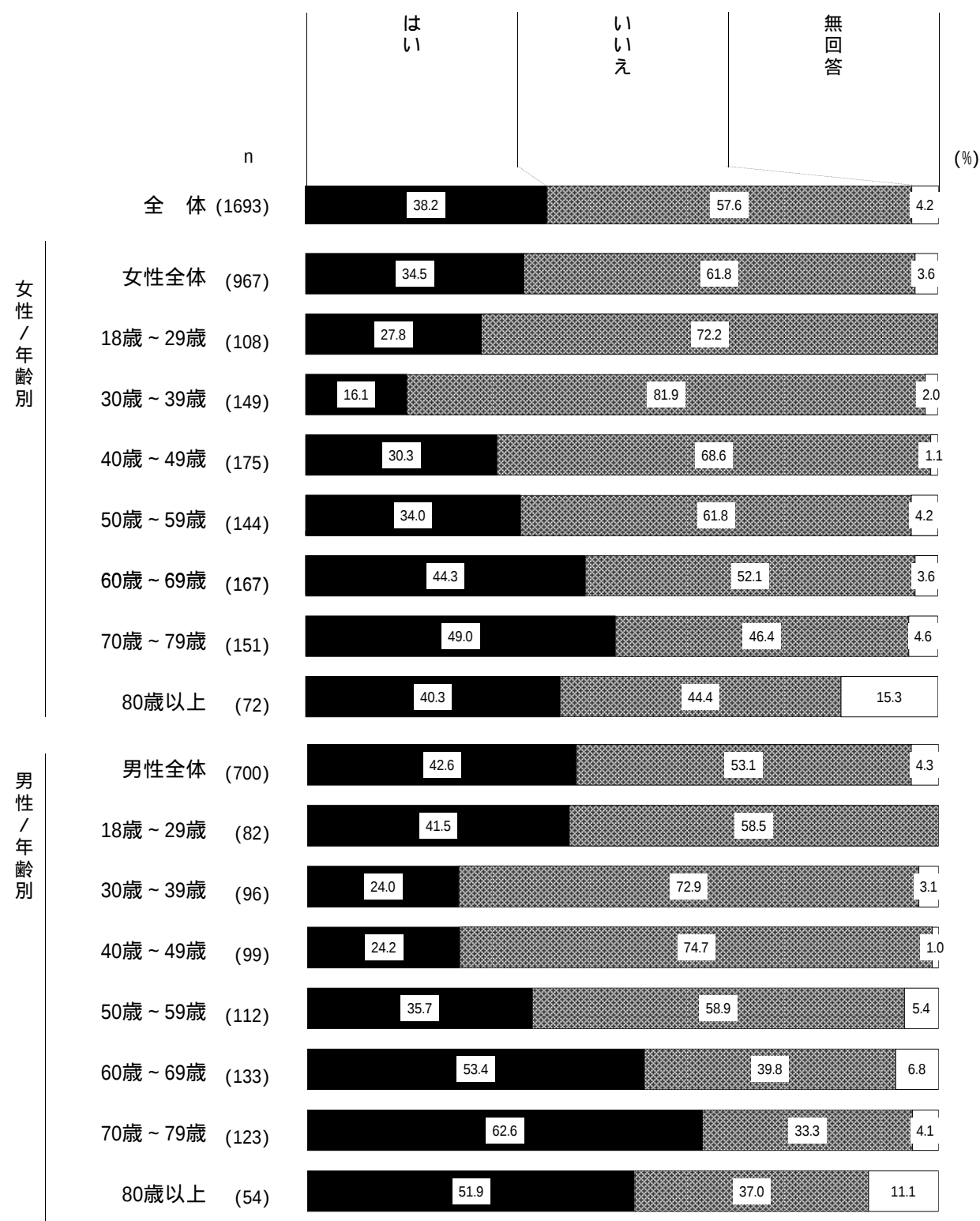
図表5-6 日常的に運動する習慣の有無(前回調査・性別・地域別)



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-7)

- ・「はい」(日常的に運動する習慣がある)と回答した割合は、男女とも60歳以上で高くなる傾向がみられる。
- ・「いいえ」(日常的に運動する習慣がない)と回答した割合は、女性18歳～49歳と男性30歳～39歳で高い。

図表5-7 日常的に運動する習慣の有無(性×年齢別)

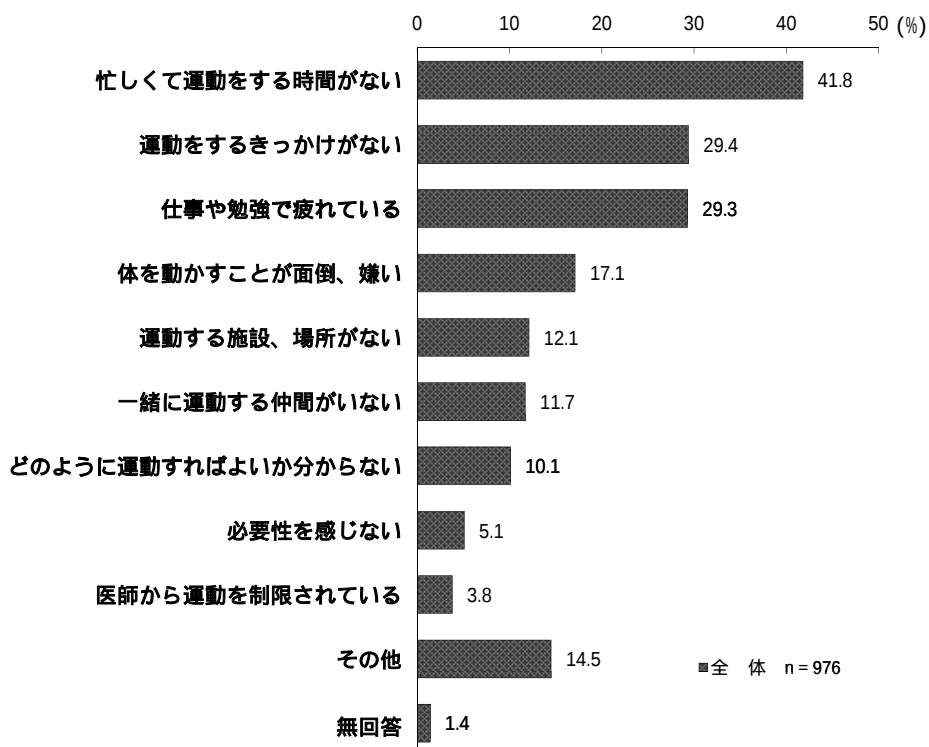


5 - 3 運動をしない理由

「忙しくて運動をする時間がない」が4割前半で最も高い

問 19-2-1 問19-2で、「2.いいえ」と答えた方にうかがいます。
運動をしない理由は何ですか。(○はいくつでも)

図表5-8 運動をしない理由(複数回答)



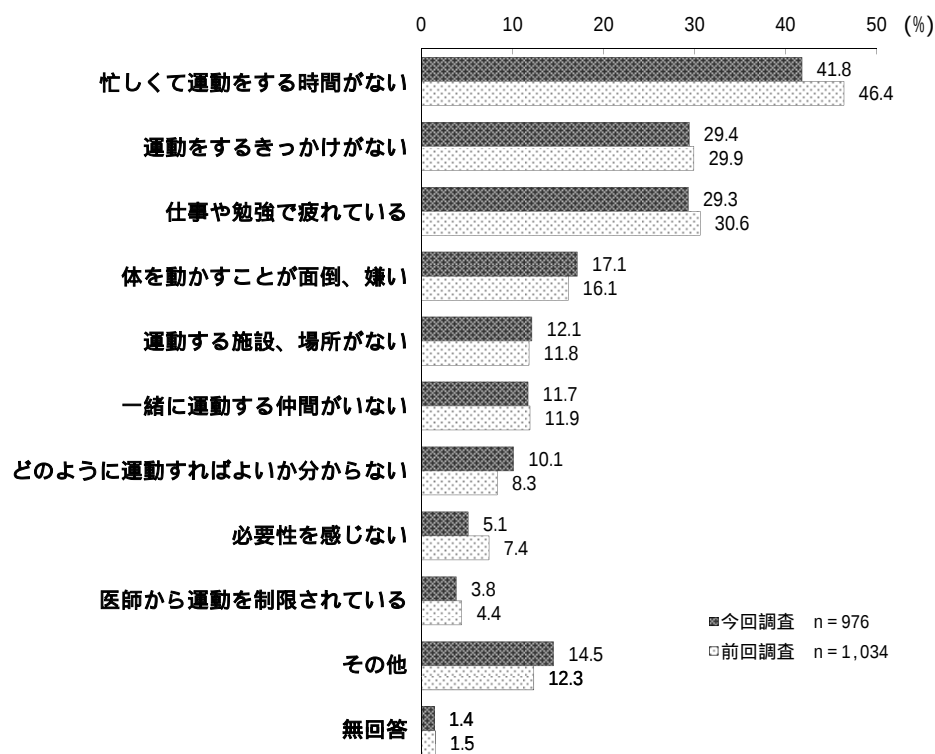
《全体》上位6項目は以下となる。(図表5-8)

- ・「忙しくて運動をする時間がない」(41.8%)
- ・「運動をするきっかけがない」(29.4%)
- ・「仕事や勉強で疲れている」(29.3%)
- ・「体を動かすことが面倒、嫌い」(17.1%)
- ・「運動する施設、場所がない」(12.1%)
- ・「一緒に運動する仲間がいない」(11.7%)

〔前回調査(平成21年度)との比較〕 傾向に大きな変化はないが、目立った増減は以下の箇所となる。(図表5-9)

- ・「運動をするきっかけがない」と「仕事や勉強で疲れている」の順位が入れ替わった。
- ・「運動する施設、場所がない」と「一緒に運動する仲間がいない」の順位が入れ替わった。
- ・「忙しくて運動をする時間がない」は、4.6ポイント減少している。

図表5-9 運動をしない理由（前回調査との比較）

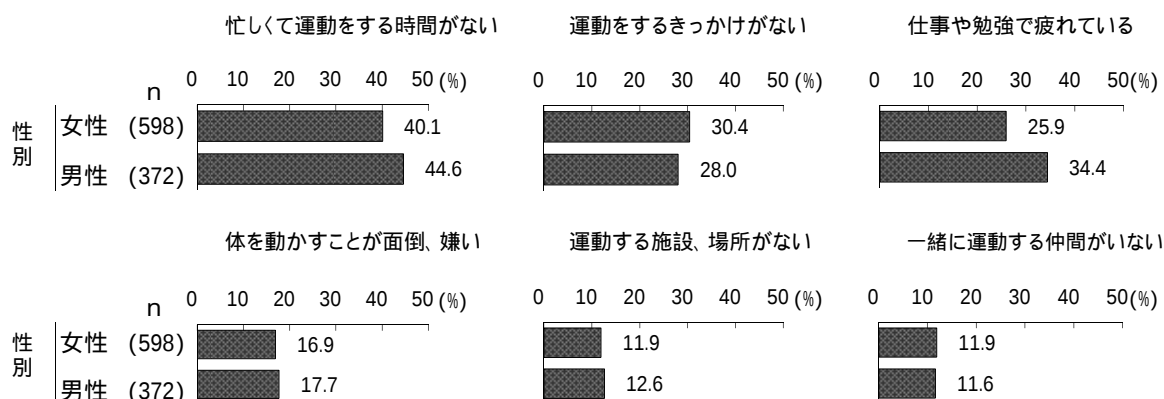


上位6項目について

〔性別〕性別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-10)

- ・「忙しくて運動をする時間がない」は、男性(44.6%)で女性より4.5ポイント高い
- ・「仕事や勉強で疲れている」は、男性(34.4%)で女性より8.5ポイント高い。

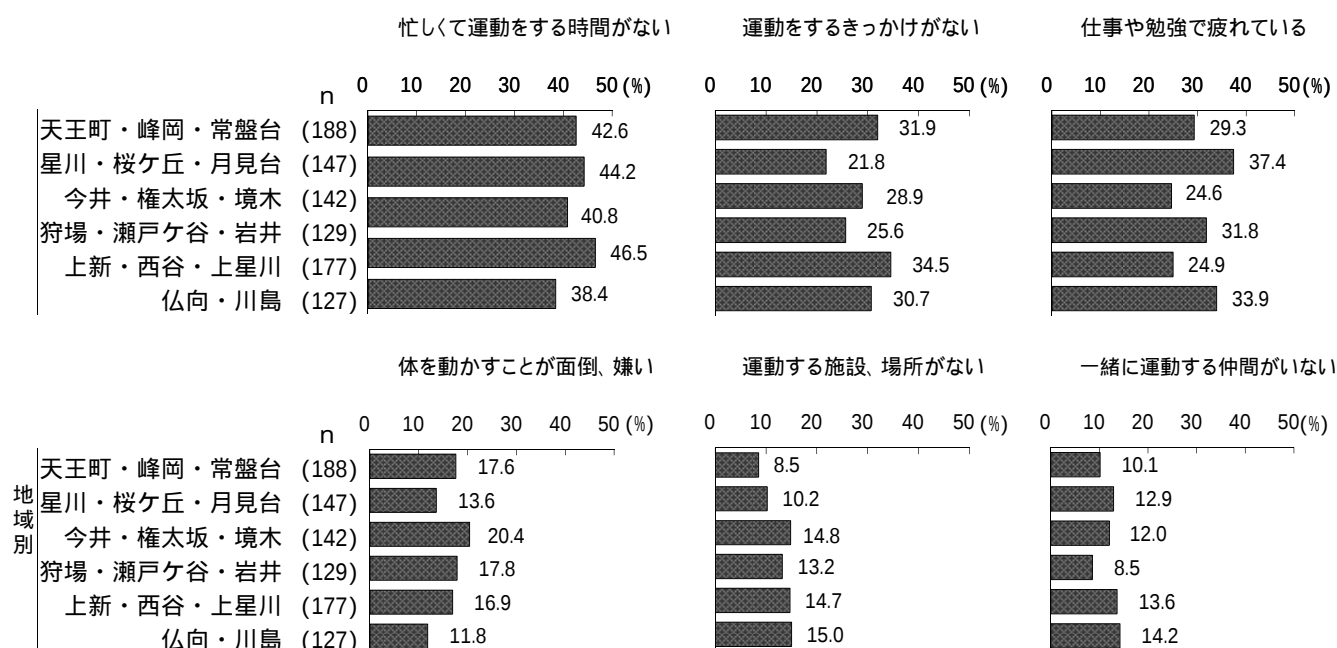
図表5-10 運動をしない理由（性別、上位6項目）



〔地域別〕地域別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-11)

- ・「運動をするきっかけがない」は、星川・桜ヶ丘・月見台(21.8%)で低い。
- ・「仕事や勉強で疲れている」は、星川・桜ヶ丘・月見台(37.4%)で高い。
- ・「体を動かすことが面倒、嫌い」は、仏向・川島(11.8%)で低い。

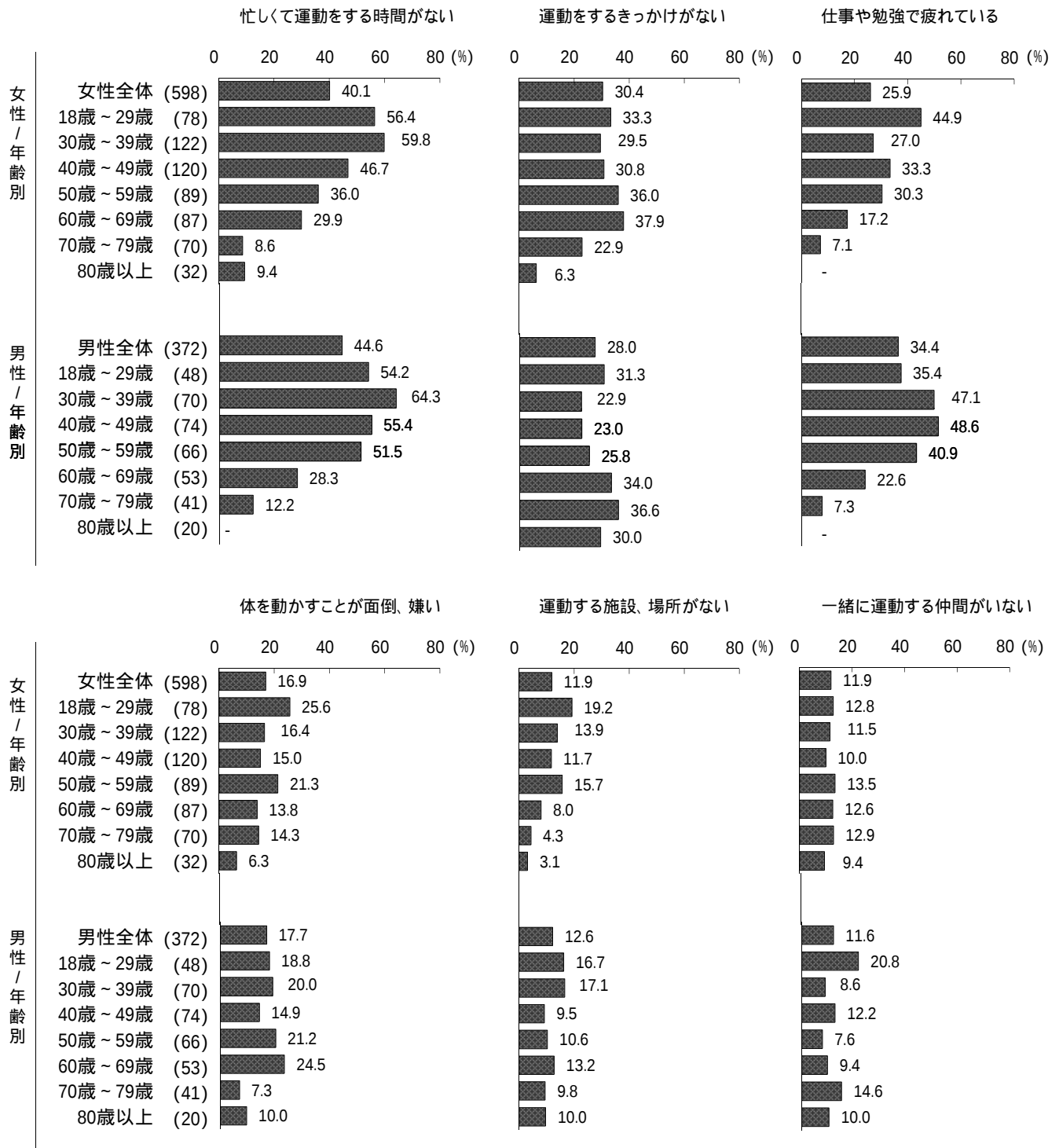
図表5-11 運動をしない理由（地域別、上位6項目）



〔性×年齢別〕 性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-12)

- ・「忙しくて運動をする時間がない」は、女性18歳～49歳と男性18歳～59歳で高く、年齢が上がるにつれ低くなる傾向がある。
- ・「運動をするきっかけがない」は、女性80歳以上(6.3%)で特に低い。
- ・「仕事や勉強で疲れている」は、女性18歳～29歳と男性30歳～49歳で特に高く、年齢が上がるにつれ低くなる傾向がある。
- ・「体を動かすことが面倒、嫌い」は、女性18歳～29歳(25.6%)と男性60歳～69歳(24.5%)で高く、女性80歳以上(6.3%)と男性70歳以上で低い。

図表5-12 運動をしない理由(性×年齢別、上位6項目)

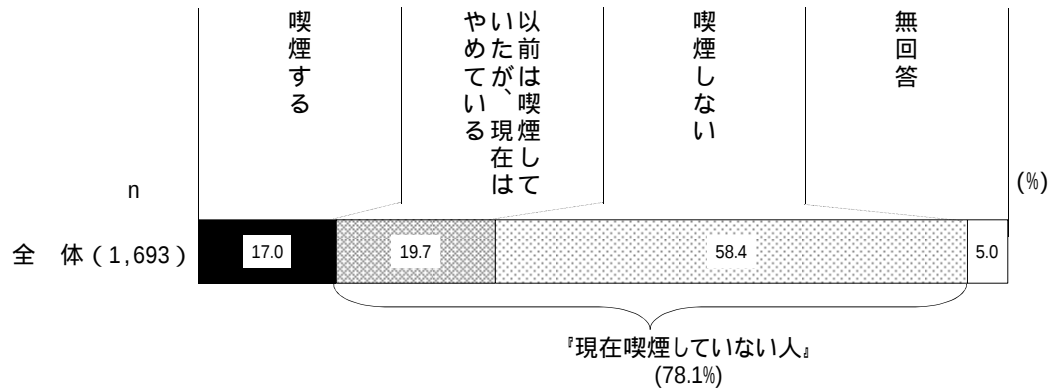


5 - 4 喫煙状況

『現在喫煙していない人』の割合が7割後半

問 19-3 全員の方へうかがいます。
(たばこの)喫煙状況についてお答えください。(○は1つ)
20歳以上の方にうかがいます。

図表5-13 喫煙状況



20歳未満の人数は特定できないため18歳、19歳も含めた全体で集計をおこなった。

〈全体〉 3項目を上位から並べると以下となる。(図表5-13)

- ・「喫煙しない」(58.4%)
- ・「以前は喫煙していたが、現在はやめている」(19.7%)
- ・「喫煙する」(17.0%)

また、「喫煙しない」と「以前は喫煙していたが、現在はやめている」をあわせた『現在喫煙していない人』の割合は、78.1%にのぼる。

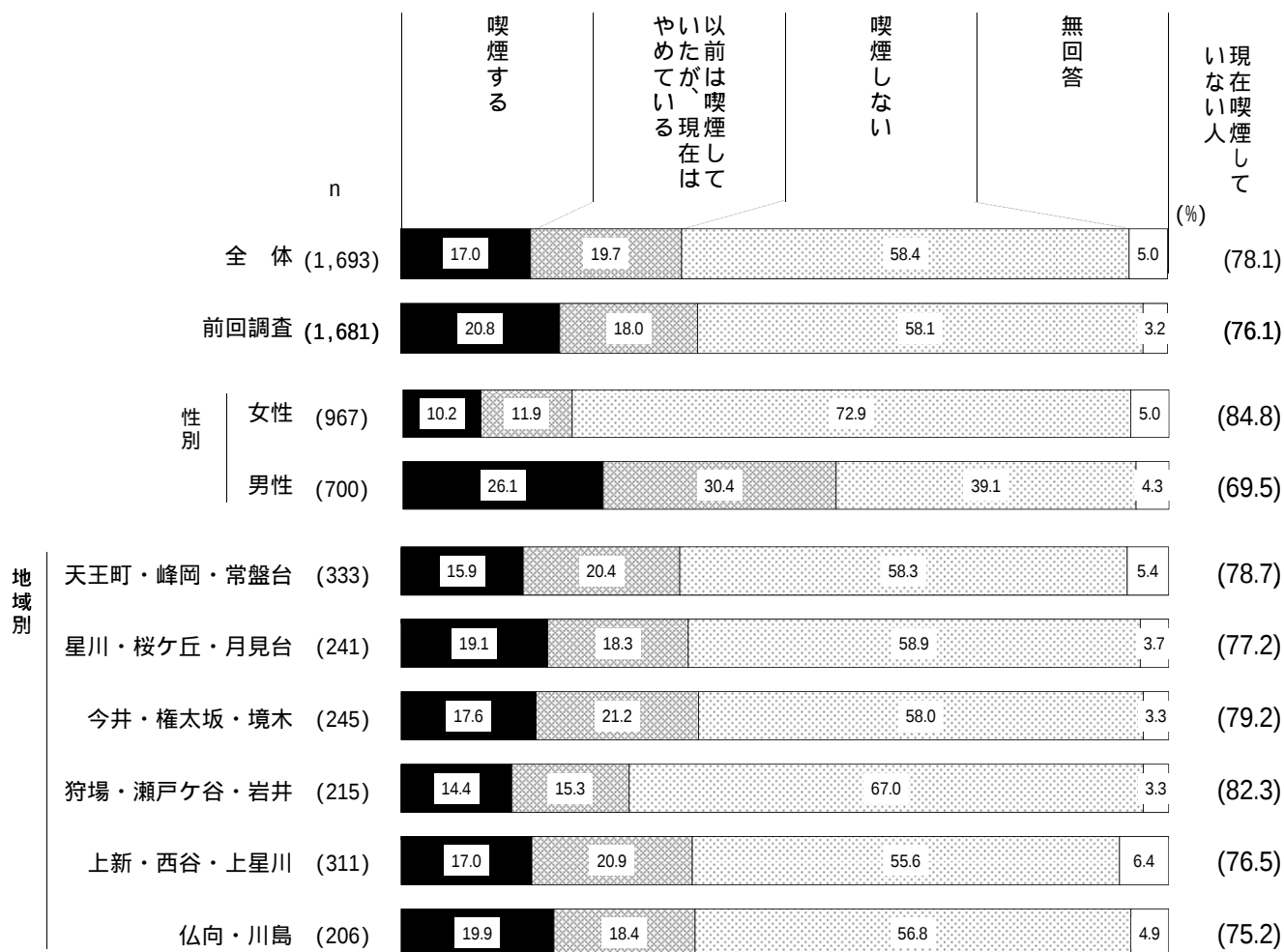
〔前回調査(平成21年度)との比較〕「喫煙する」が3.8ポイント減った。(図表5-14)

〔性別〕性別にみて、男性が喫煙率が高い。差があるのは以下の箇所となる。(図表5-14)

- ・「喫煙する」は、男性(26.1%)で女性より15.9ポイント高い。
- ・「以前は喫煙していたが、現在はやめている」は、男性(30.4%)で女性より18.5ポイント高い。
- ・「喫煙しない」は、女性(72.9%)で男性より33.8ポイント高い。
- ・『現在喫煙していない人』の割合は、女性(84.8%)で男性より15.3ポイント高い。

〔地域別〕地域別にみて、大きな差はみられない。(図表5-14)

図表5-14 喫煙状況(前回調査・性別・地域別)



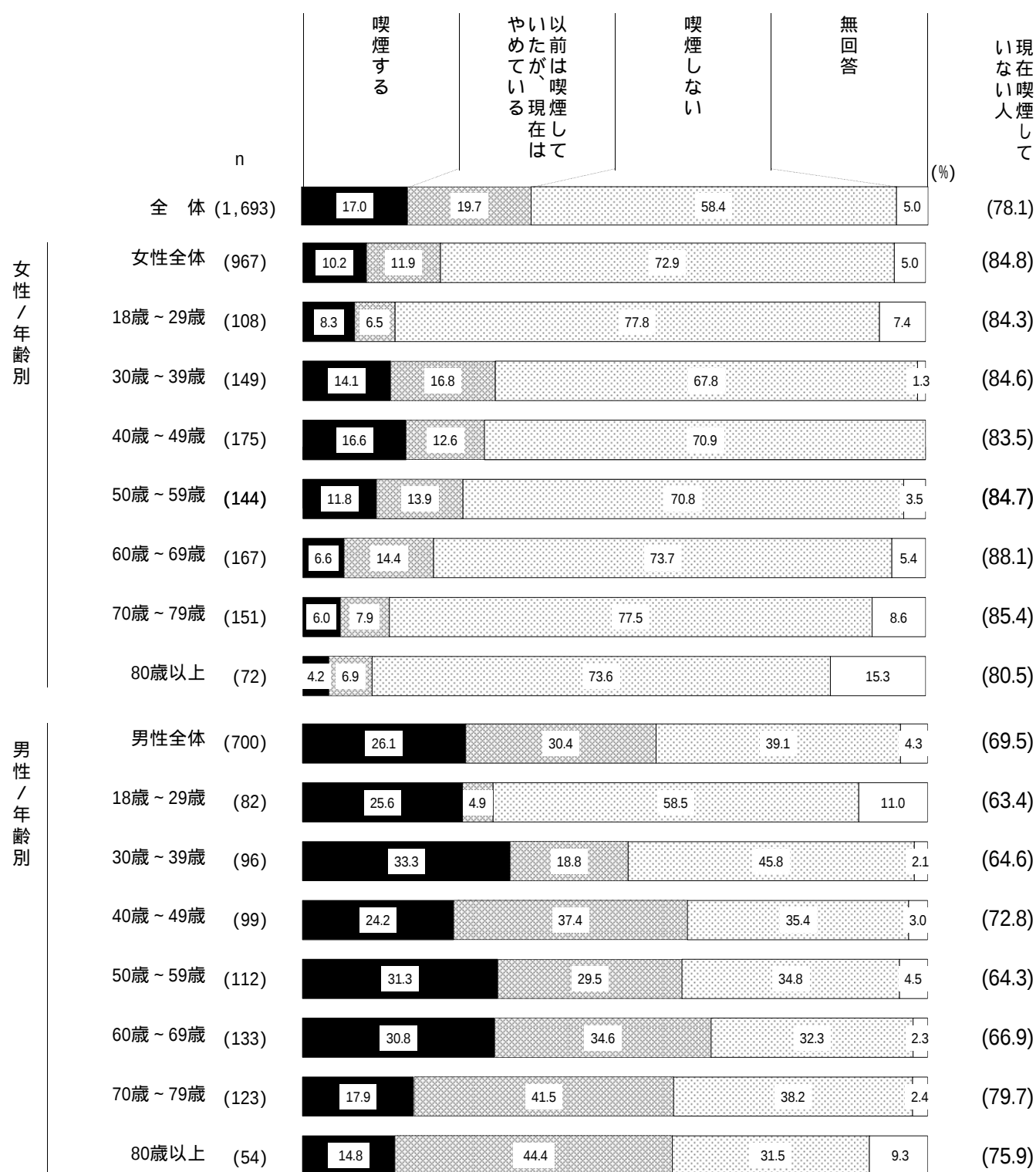
20歳未満の人数は特定できないため18歳、19歳も含めた全体で集計をおこなった。



〔性×年齢別〕性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-15)

- ・「喫煙する」は、男性30歳～39歳(33.3%)と男性50歳～69歳で特に高い。
- ・「以前は喫煙していたが、現在はやめている」は、男性40歳以上で高く、中でも男性70歳以上で特に高い。
- ・「喫煙しない」は、女性30歳～39歳以外の全年齢と、男性18歳～29歳(58.5%)で高い。
- ・『現在喫煙していない人』の割合は、男性18歳～39歳と男性50歳～69歳以外の男女全年齢で高い。

図表5-15 喫煙状況(性×年齢別)



20歳未満の人数は特定できないため18歳、19歳も含めた全体で集計をおこなった。

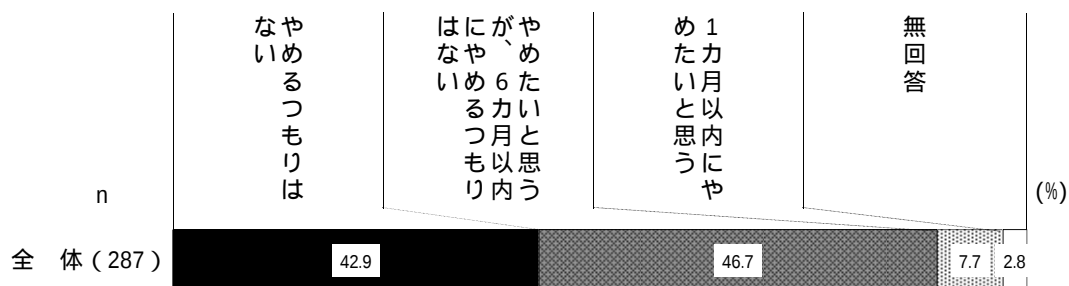
5 - 5 今後の禁煙の意向

「やめたいと思うが、6カ月以内にやめるつもりはない」が4割後半、
「やめるつもりはない」が4割前半

問 19-3-1

問19-3で、「1. 喫煙する」と答えた方にうかがいます。
今後喫煙をやめたいと思いますか。(○は1つ)

図表5-16 今後の禁煙の意向



(全体) 3項目を上位から並べると以下となる。(図表5-16)

- ・「やめたいと思うが、6カ月以内にやめるつもりはない」(46.7%)
- ・「やめるつもりはない」(42.9%)
- ・「1カ月以内にやめたいと思う」(7.7%)

(前回調査(平成21年度)との比較)「やめるつもりはない」が7.1ポイント減り、「やめたいと思うが、6カ月以内にやめるつもりはない」が4.4ポイント増えた。(図表5-17)

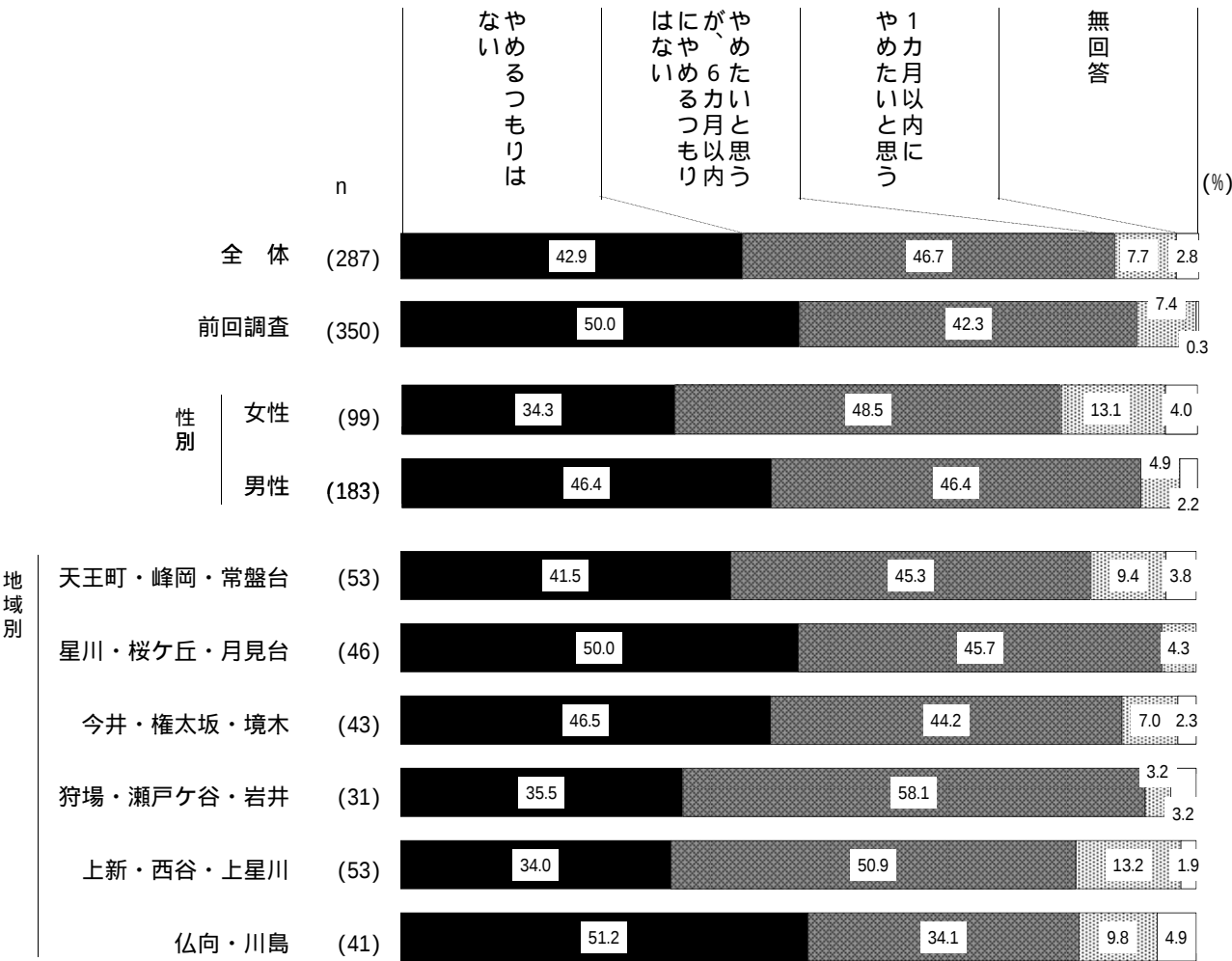
(性別) 性別にみて、男性は今後の禁煙の意向が低い。差があるのは以下の箇所となる。(図表5-17)

- ・「やめるつもりはない」は、男性(46.4%)で女性より12.1ポイント高い。
- ・「1カ月以内にやめたいと思う」は、女性(13.1%)で男性より8.2ポイント高い。

(地域別) 地域別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-17)

- ・「やめるつもりはない」は、星川・桜ヶ丘・月見台(50.0%)と仏向・川島(51.2%)で高く、狩場・瀬戸ヶ谷・岩井(35.5%)と上新・西谷・上星川(34.0%)で低い。
- ・「やめたいと思うが、6カ月以内にやめるつもりはない」は、狩場・瀬戸ヶ谷・岩井(58.1%)で高く、仏向・川島(34.1%)で低い。

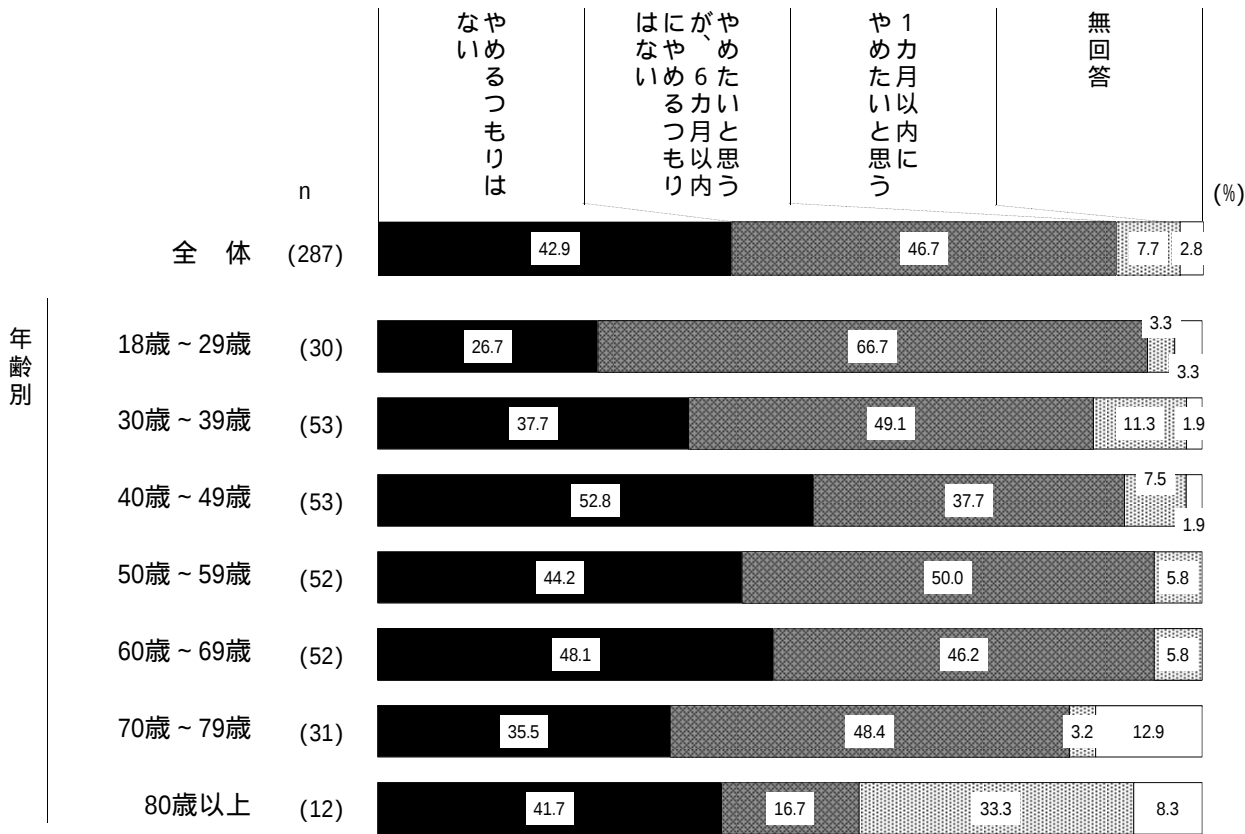
図表5-17 今後の禁煙の意向（前回調査・性別・地域別）



(年齢別) 年齢別にみて差があるのは以下の箇所となる。(図表5-18)

- ・「やめるつもりはない」は、40歳～49歳(52.8%)で高く、18～29歳(26.7%)で特に低い。
- ・「やめたいと思うが、6ヵ月以内にやめるつもりはない」は、18～29歳(66.7%)で特に高く、80歳以上(16.7%)で特に低い。
- ・「1ヵ月以内にやめたいと思う」は、80歳以上(33.3%)で特に高い。

図表5-18 今後の禁煙の意向（年齢別）



対象者の基数が少ないため、分析を「性×年齢別」ではなく「年齢別」で行っている。

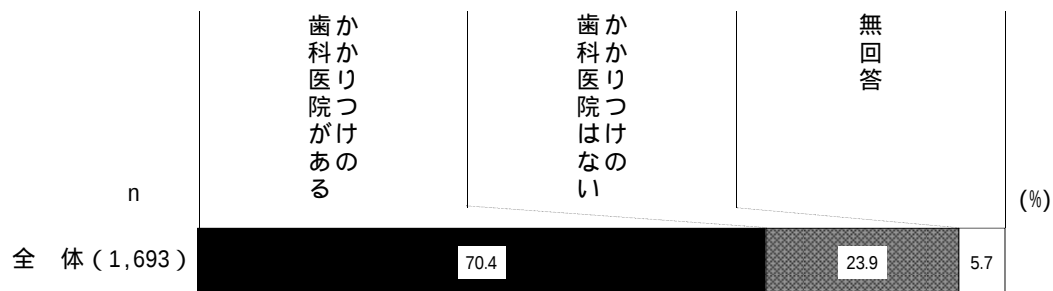
5 - 6 かかりつけの歯科医院の有無

「かかりつけの歯科医院がある」が約7割

問 19-4 (歯周病) 歯科医院についてお答えください。

(○は1つ)

図表5-19 かかりつけの歯科医院の有無



(全体) 「かかりつけの歯科医院がある」(70.4%)が約7割、「かかりつけの歯科医院はない」(23.9%)が2割前半となっている。(図表5-19)

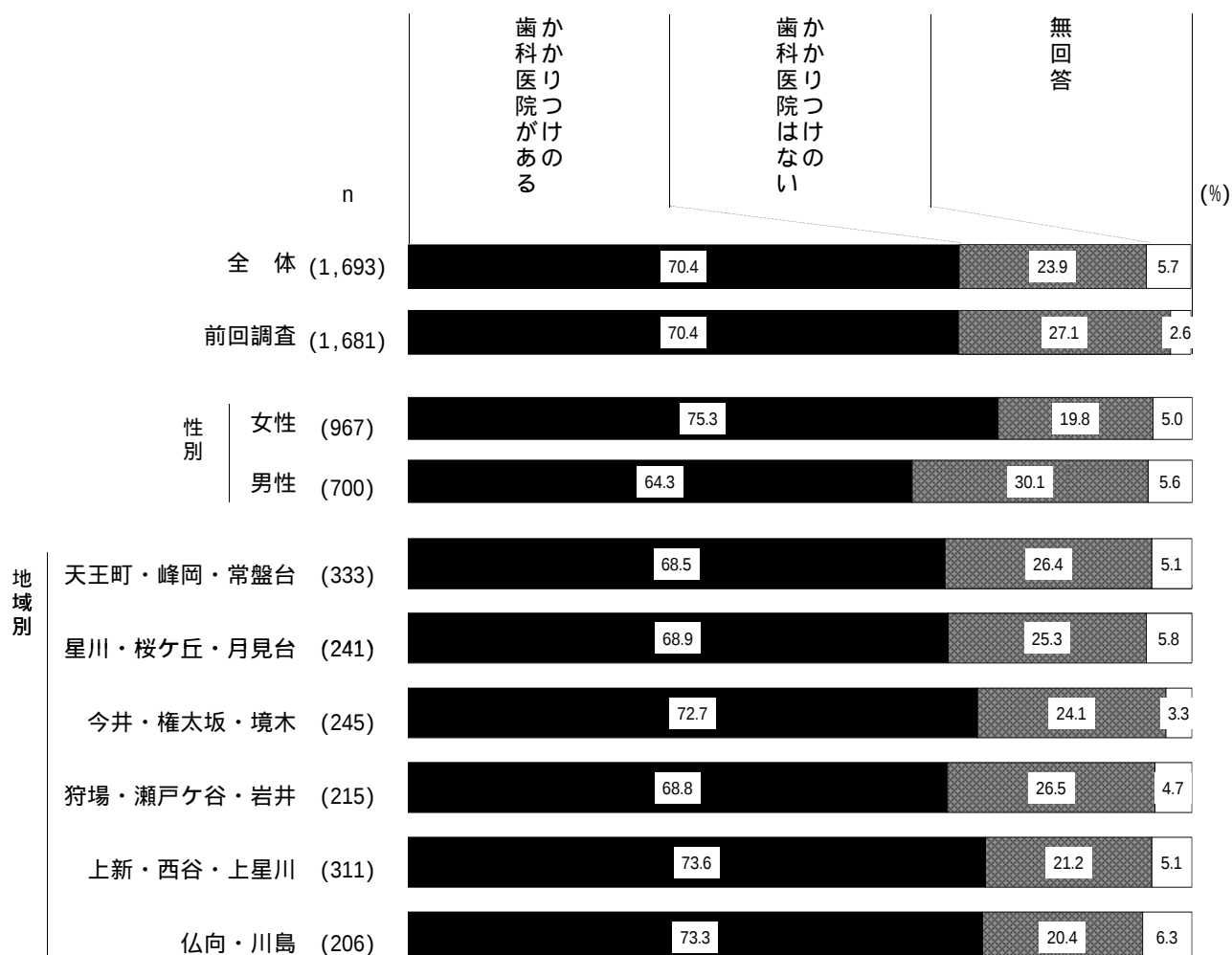
〔前回調査(平成21年度)との比較〕 大きな差はみられない。(図表5-20)

〔性別〕 性別にみて、女性はかかりつけの歯科医院がある方が多い。差があるのは以下の箇所となる。(図表5-20)

- ・「かかりつけの歯科医院がある」は、女性(75.3%)で男性より11.0ポイント高い。
- ・「かかりつけの歯科医院はない」は、男性(30.1%)で女性より10.3ポイント高い。

〔地域別〕 地域別にみて、大きな差はみられない。(図表5-20)

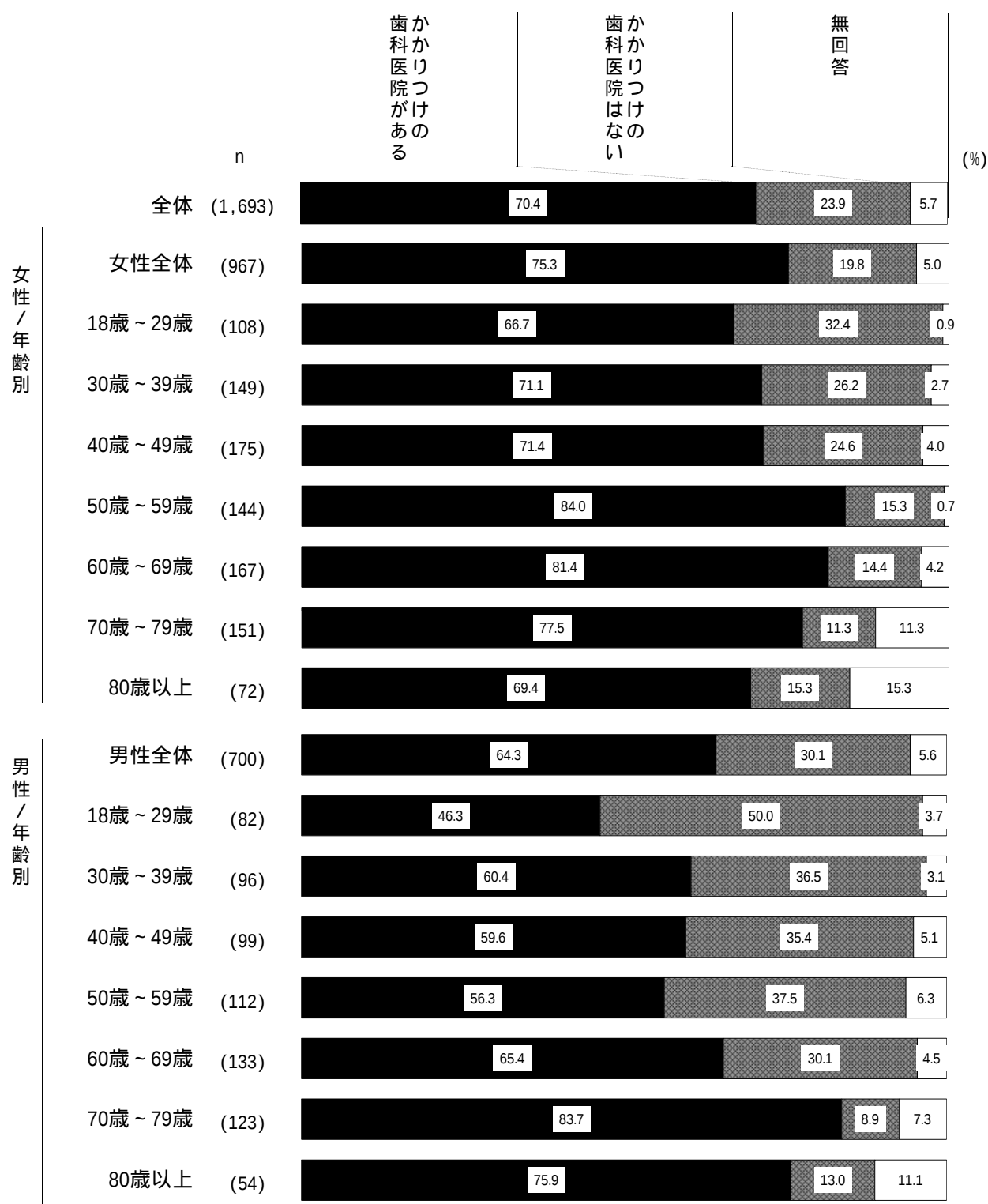
図表5-20 かかりつけの歯科医院の有無(前回調査・性別・地域別)



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-21)

- ・「かかりつけの歯科医院がある」は、女性50歳～69歳(81.4%)と男性70歳～79歳(83.7%)で高く、男性18歳～29歳で特に低い。
- ・「かかりつけの歯科医院はない」は、女性18歳～29歳(32.4%)で高く、男性18歳～29歳(50.0%)で特に高い。男性70歳以上で特に低い。

図表5-21 かかりつけの歯科医院の有無(性×年齢別)

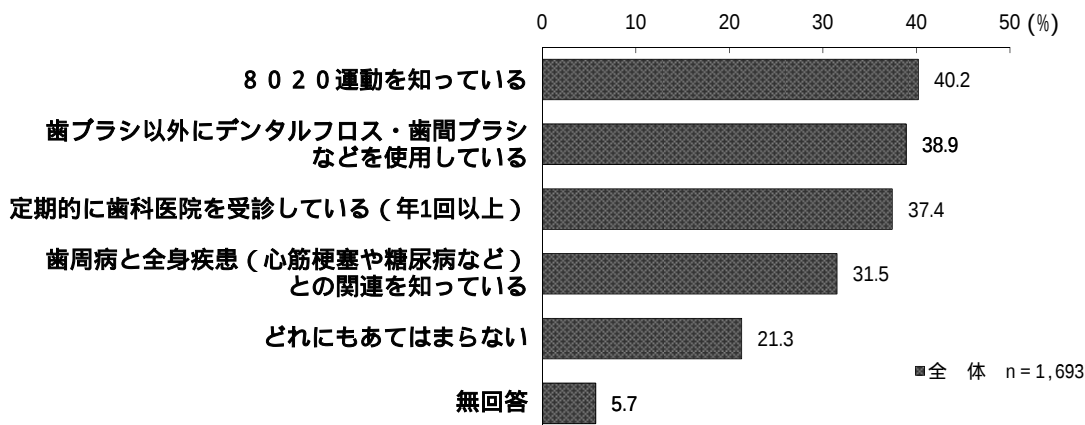


5 - 7 歯についての意識

「8020運動を知っている」、「歯ブラシ以外にデンタルフロス・歯間ブラシなどを使用している」、「定期的に歯科医院を受診している(年1回以上)」が並んで4割前後

問 19-5 (歯科) 歯科について、あてはまることをお答えください。(○はいくつでも)

図表5-22 歯についての意識(複数回答)

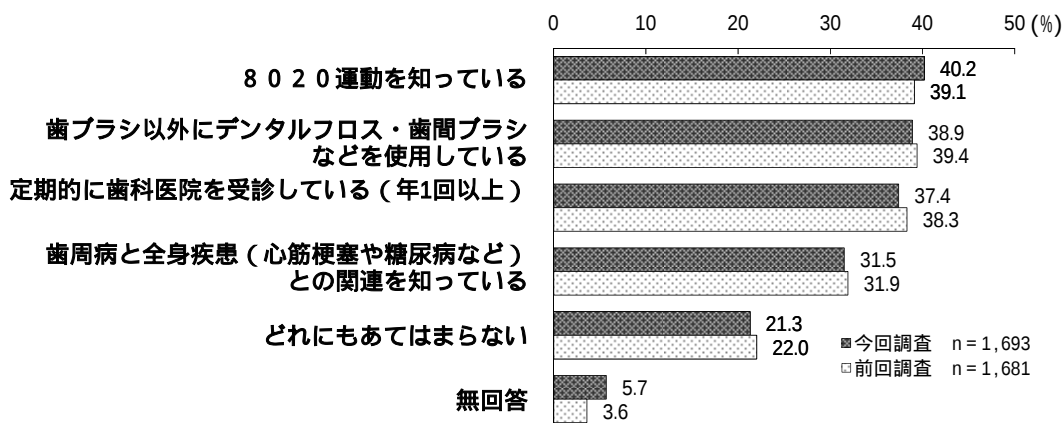


(全体) 上位5項目は以下となる。(図表5-22)

- ・「8020運動を知っている」(40.2%)
- ・「歯ブラシ以外にデンタルフロス・歯間ブラシなどを使用している」(38.9%)
- ・「定期的に歯科医院を受診している(年1回以上)」(37.4%)
- ・「歯周病と全身疾患(心筋梗塞や糖尿病など)との関連を知っている」(31.5%)
- ・「どれにもあてはまらない」(21.3%)

(前回調査(平成21年度)との比較) 傾向に大きな変化はないが、「8020運動を知っている」と「歯ブラシ以外にデンタルフロス・歯間ブラシなどを使用している」の順位が入れ替わった。(図表5-23)

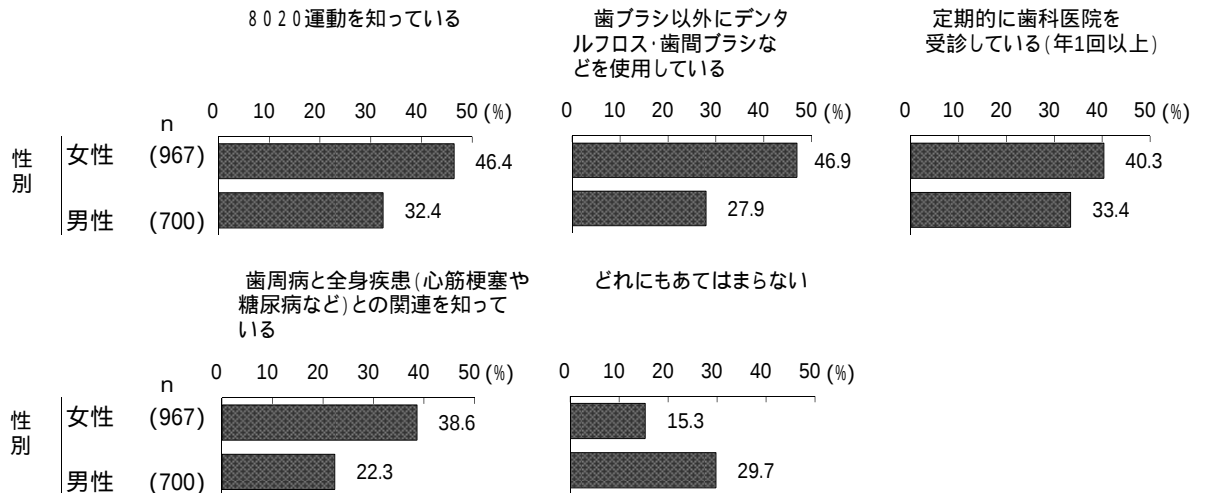
図表5-23 歯についての意識(前回調査との比較)



(性別) 性別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-24)

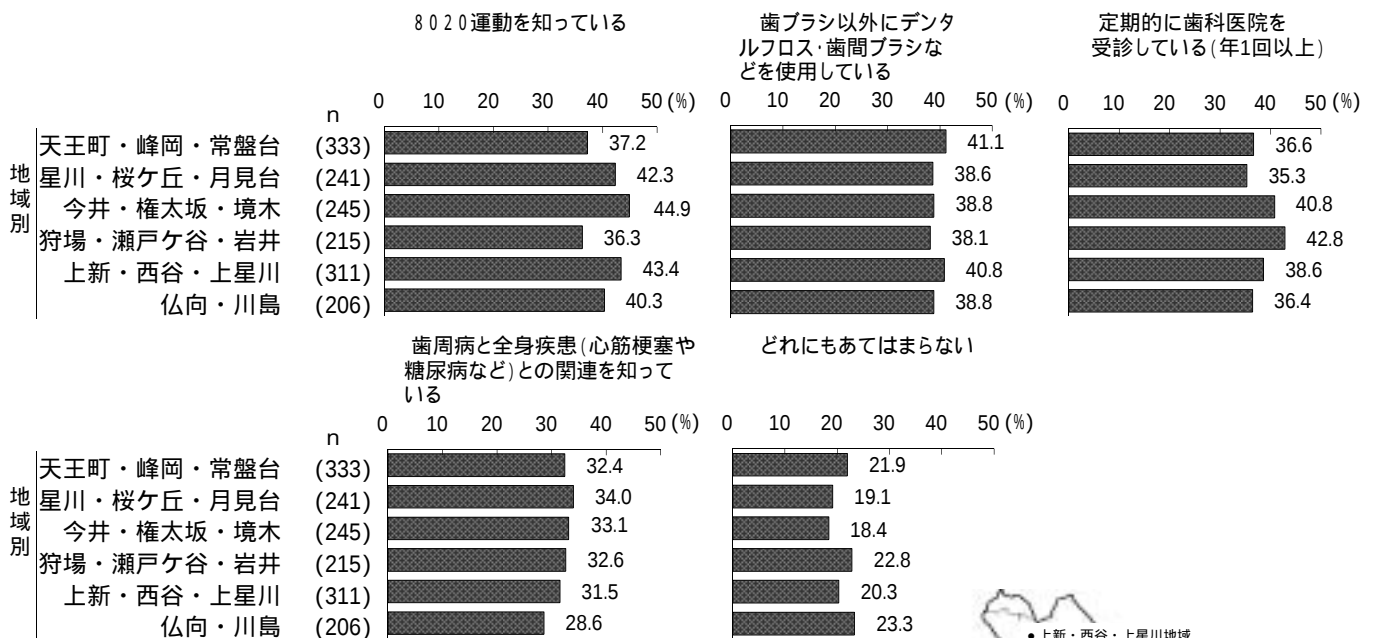
- ・女性の方が歯についての意識は高い。
- ・「8020運動を知っている」は、女性(46.4%)で男性より14.0ポイント高い。
- ・「デンタルフロス・歯間ブラシなどを使用している」は、女性(46.9%)で男性より19.0ポイント高い。
- ・「定期的に歯科医院を受診している」は、女性(40.3%)で男性より6.9ポイント高い。
- ・「歯周病と全身疾患との関連を知っている」は、女性(38.6%)で男性より16.3ポイント高い。
- ・「どれにもあてはまらない」は、男性(29.7%)で女性より14.4ポイント高い。

図表5-24 歯についての意識(性別)



(地域別) 地域別にみて、大きな差はみられない。(図表5-25)

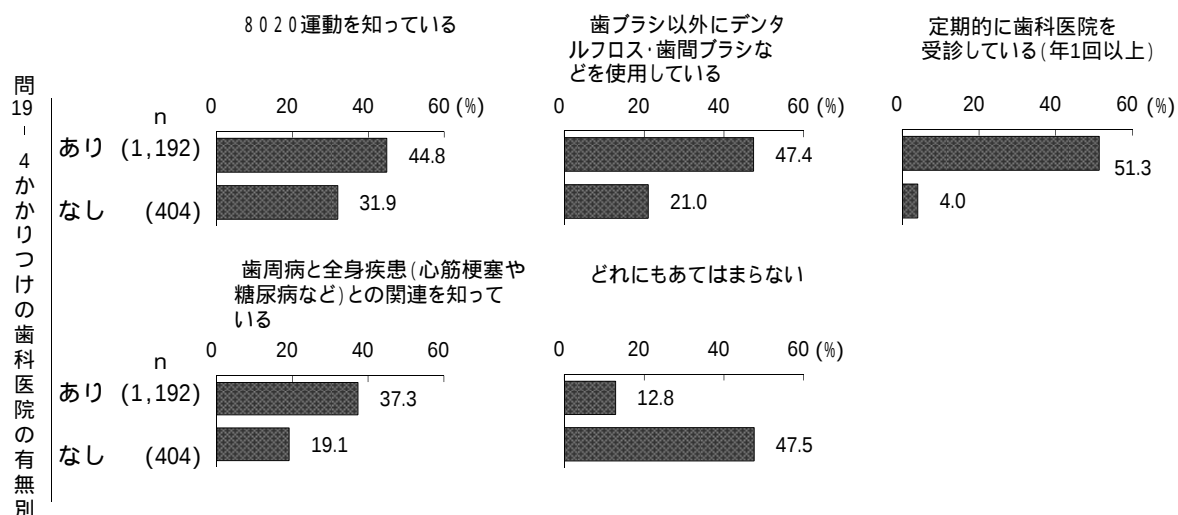
図表5-25 歯についての意識(地域別)



〔かかりつけの歯科医院の有無別〕 かかりつけの歯科医院の有無別にみて、かかりつけの歯科医院のあると回答した方が特に多い。差があるのは以下の箇所となる。(図表5-26)

- ・「8020運動を知っている」は、ありと回答した方(44.8%)で12.9ポイント高い。
- ・「デンタルフロス・歯間ブラシなどを使用している」は、ありと回答した方(47.4%)で26.4ポイント高い。
- ・「定期的に歯科医院を受診している」は、ありと回答した方(51.3%)で47.3ポイント高い。
- ・「歯周病と全身疾患との関連を知っている」は、ありと回答した方(37.3%)で18.2ポイント高い。
- ・「どれにもあてはまらない」は、なしと回答した方(47.5%)で34.7ポイント高い。

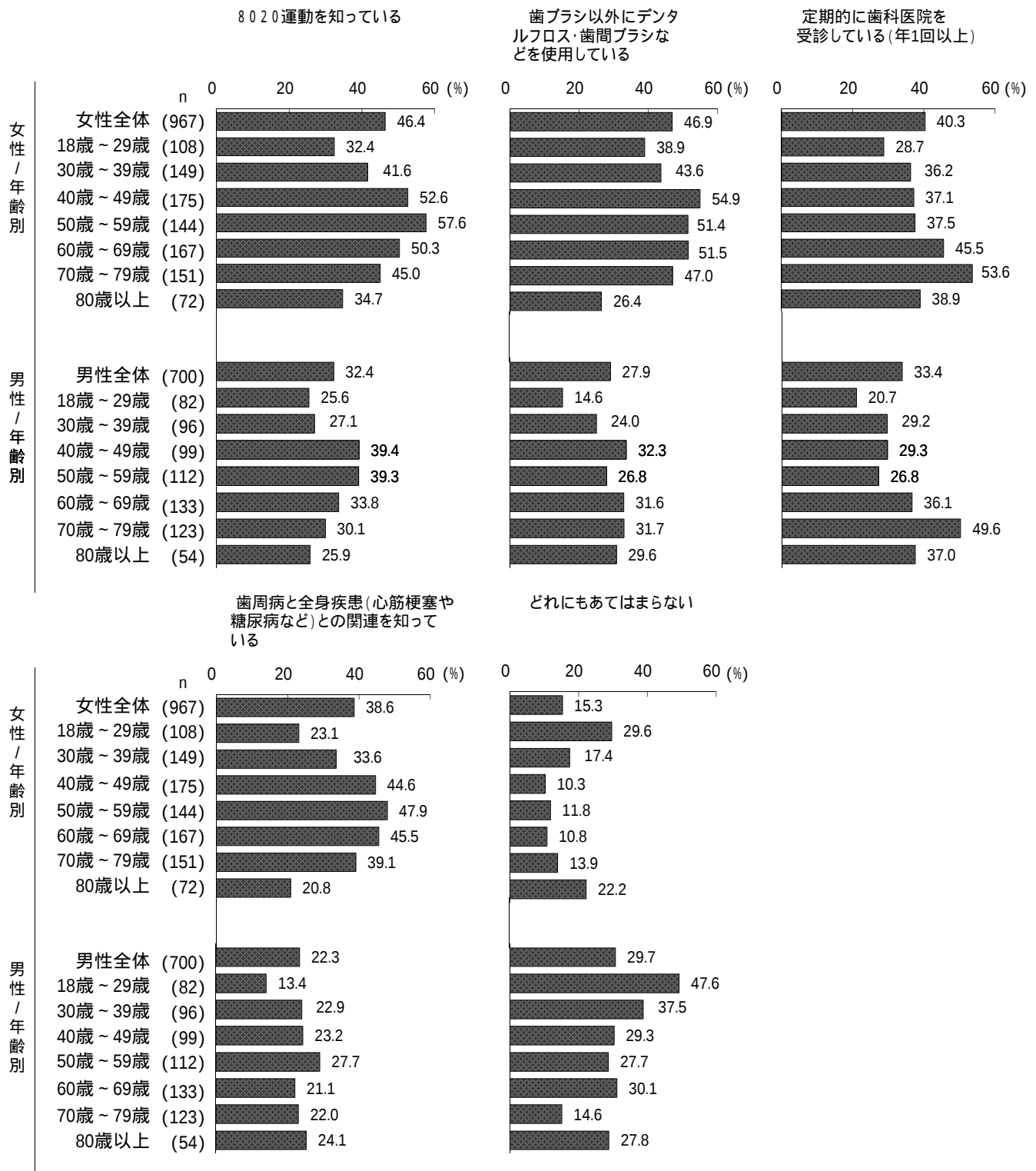
図表5-26 歯についての意識（問19-4かかりつけの歯科医院の有無別）



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-27)

- ・「8020運動を知っている」は、男女とも40歳～59歳がピークで高く、18歳～29歳と80歳以上で低い。
- ・「デンタルフロス・歯間ブラシなどを使用している」は、女性40歳～49歳(54.9%)で高く、女性80歳以上(26.4%)と男性18歳～29歳(14.6%)で低い。
- ・「定期的に歯科医院を受診している」は、男女とも70歳～79歳で高く、18歳～29歳で低い。
- ・「歯周病と全身疾患との関連を知っている」は、男女とも18歳～29歳と女性80歳以上で低い。
- ・「どれにもあてはまらない」は、男女とも18歳～29歳で高く、女性70歳～79歳で低い。

図表5-27 歯についての意識(性×年齢別)

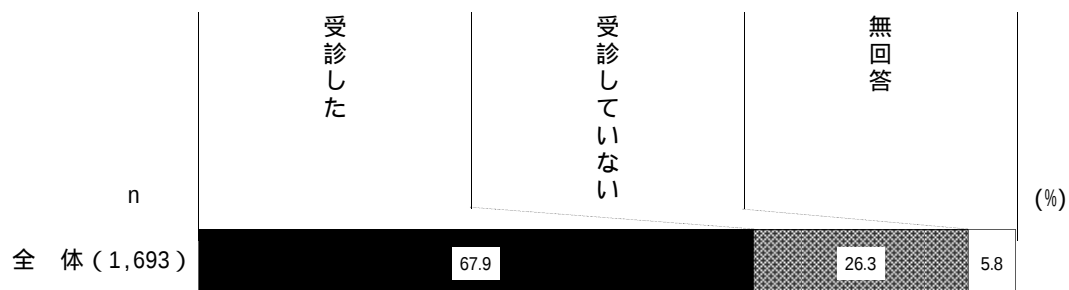


5 - 8 1年以内の健康診断の受診の有無

「受診した」と回答した人の割合が6割後半

問 19-6 (健康診断) 1年以内の健康診断の受診についてお答えください。(○は1つ)

図表5-28 1年以内の健康診断の受診の有無



(全体) 「受診した」と回答した人の割合 (67.9%) が6割後半、「受診していない」と回答した人の割合 (26.3%) は2割後半となっている。(図表5-28)

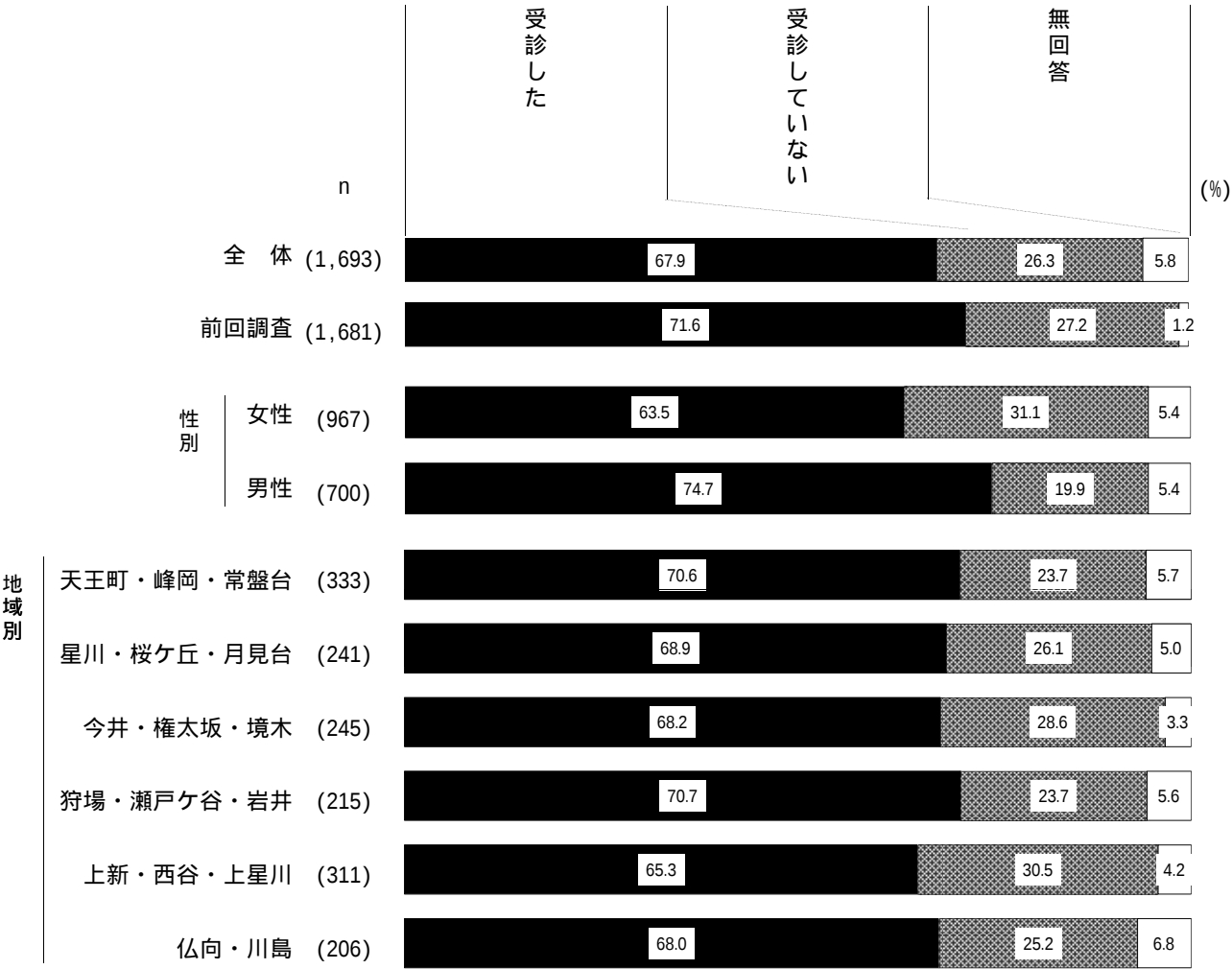
〔前回調査(平成21年度)との比較〕「受診した」が3.7ポイント減った。(図表5-29)

〔性別〕性別にみて、男性の方が受診している率が高い。差があるのは以下の箇所となる。(図表5-29)

- ・「受診した」は、男性(74.7%)で女性より11.2ポイント高い。
- ・「受診していない」は、女性(31.1%)で男性より11.2ポイント高い。

〔地域別〕地域別にみて、大きな差はみられない。(図表5-29)

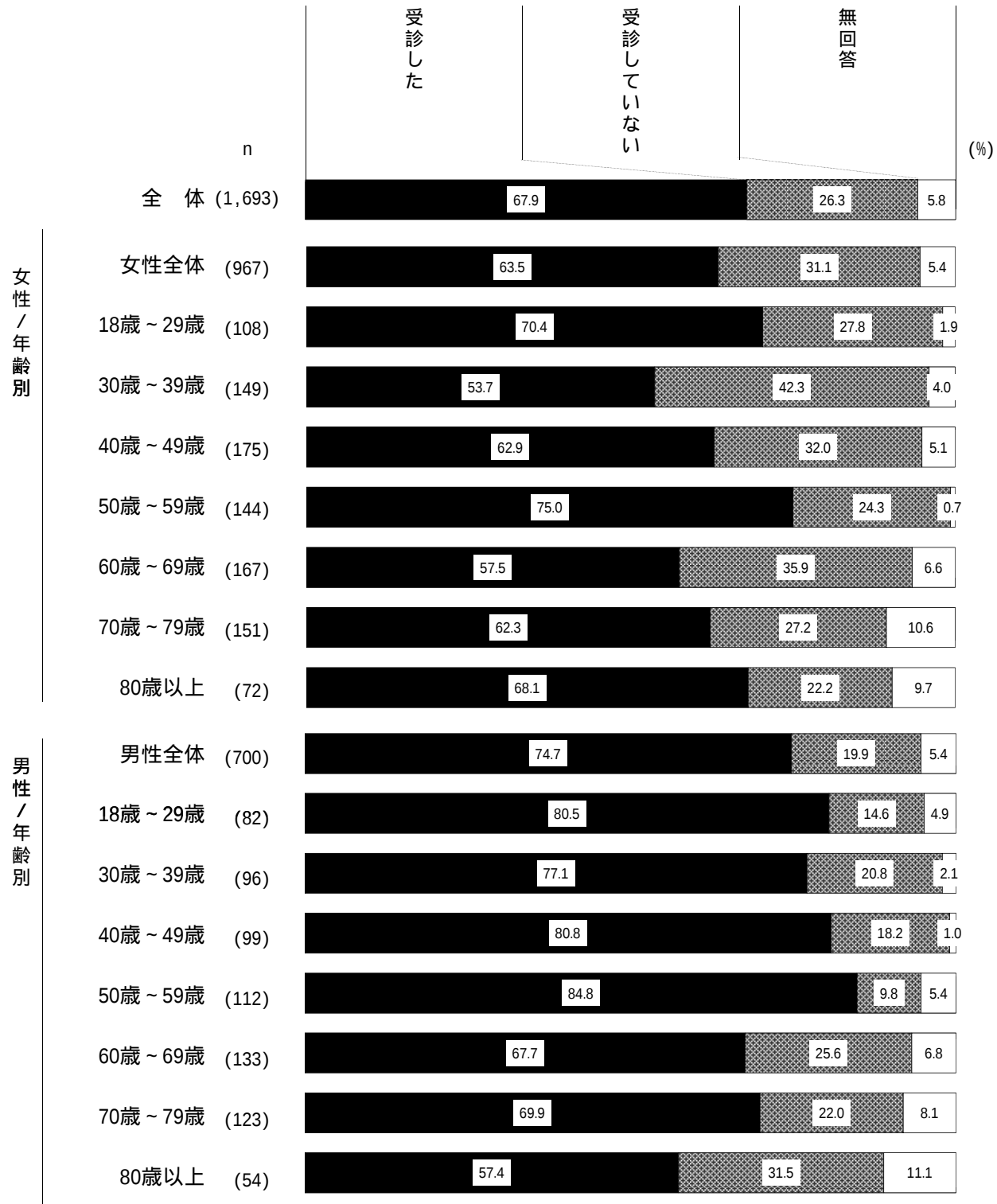
図表5-29 1年以内の健康診断の受診の有無(前回調査・性別・地域別)



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-30)

- ・「受診した」は、男性60歳以上で低くなる傾向がある。
- ・「受診していない」は、女性30歳～39歳(42.3%)と男性80歳以上(31.5%)で高い。

図表5-30 1年以内の健康診断の受診の有無(性×年齢別)



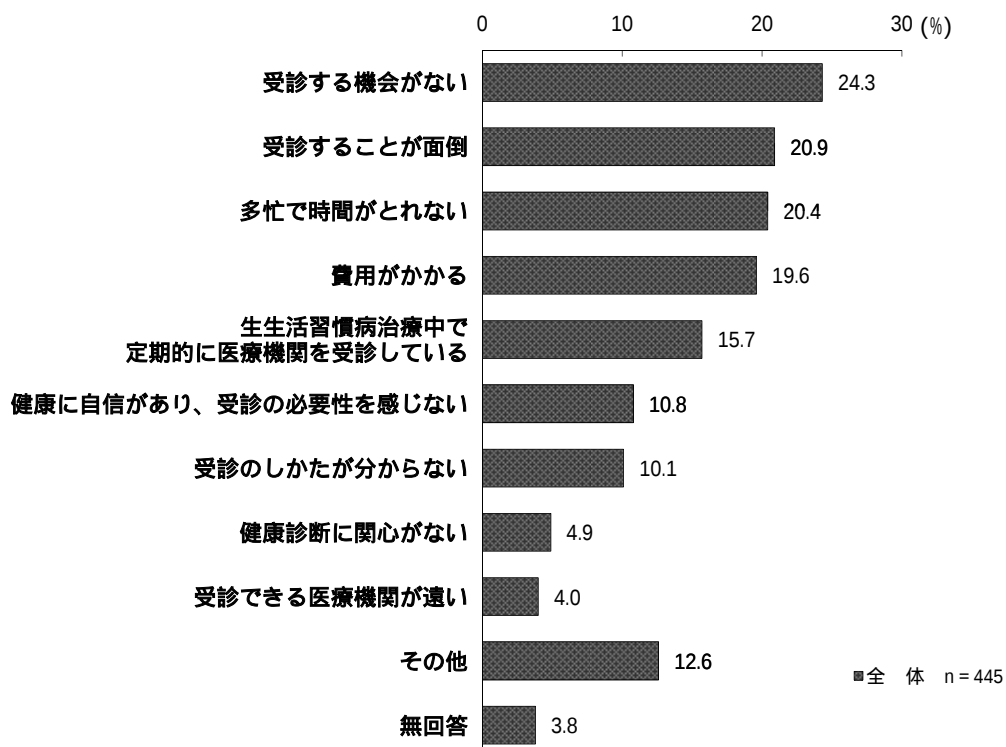
5 - 9 健康診断を受けていない理由

「受診する機会がない」が2割半ばで最も高い

問19-6-1

問19-6で「2. 受診していない」と答えた方にうかがいます。
健康診断を受けていない理由はどれですか。(○はいくつでも)

図表5-31 健康診断を受けていない理由(複数回答)



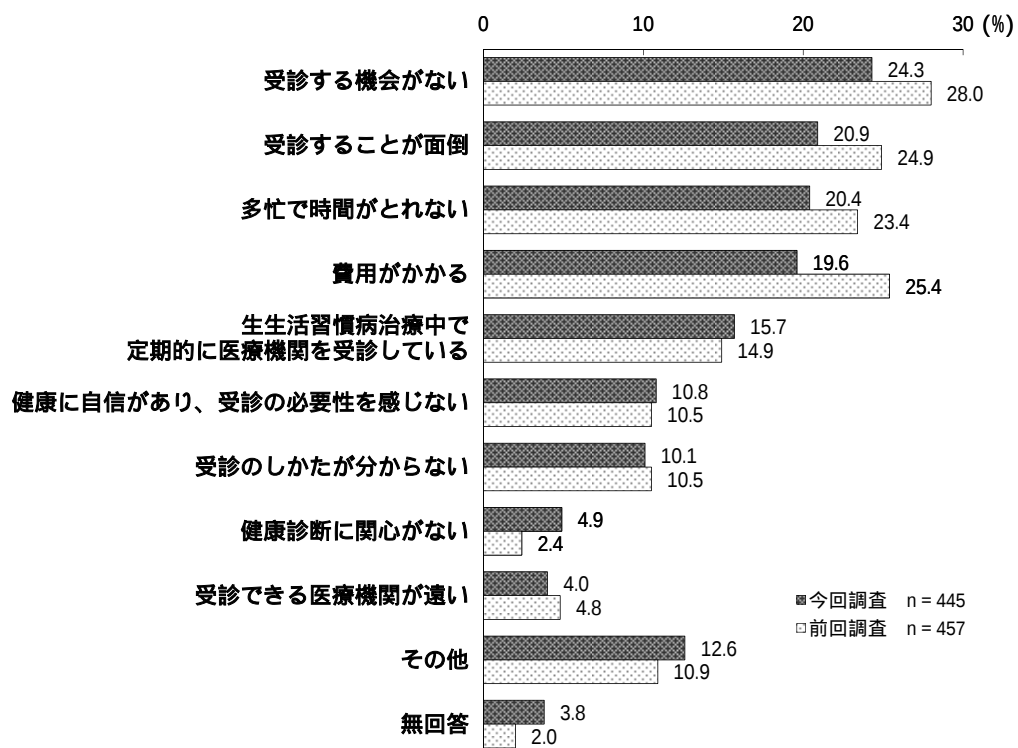
(全体) 上位6項目は以下となる。(図表5-31)

- ・「受診する機会がない」(24.3%)
- ・「受診することが面倒」(20.9%)
- ・「多忙で時間がとれない」(20.4%)
- ・「費用がかかる」(19.6%)
- ・「生活習慣病治療中で定期的に医療機関を受診している」(15.7%)
- ・「健康に自信があり、受診の必要性を感じない」(10.8%)

(前回調査(平成21年度)との比較) 傾向に大きな変化はないが、目立った増減は以下の箇所となる。(図表5-32)

- ・「費用がかかる」は、2番目(25.4%)から4番目(19.6%)に下がった。
- ・「健康診断に関心がない」と「受診できる医療機関が遠い」の順位が入れ替わった。
- ・「受診する機会がない」は、3.7ポイント減少している。
- ・「受診することが面倒」は、4.0ポイント減少している。
- ・「多忙で時間がとれない」は、3.0ポイント減少している。
- ・「費用がかかるい」は、5.8ポイント減少している。

図表5-32 健康診断を受けていない理由(前回調査との比較)

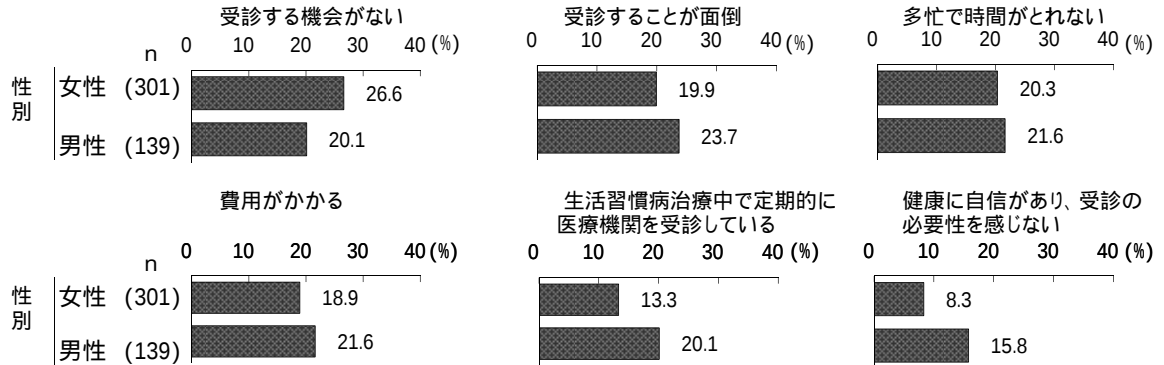


上位6項目について

(性別) 性別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-33)

- ・「受診する機会がない」は、女性(26.6%)で男性より6.5ポイント高い。
- ・「生活習慣病治療中で定期的受診している」は、男性(20.1%)で女性より6.8ポイント高い。
- ・「自信があり、必要性を感じない」は、男性(15.8%)で女性より7.5ポイント高い。

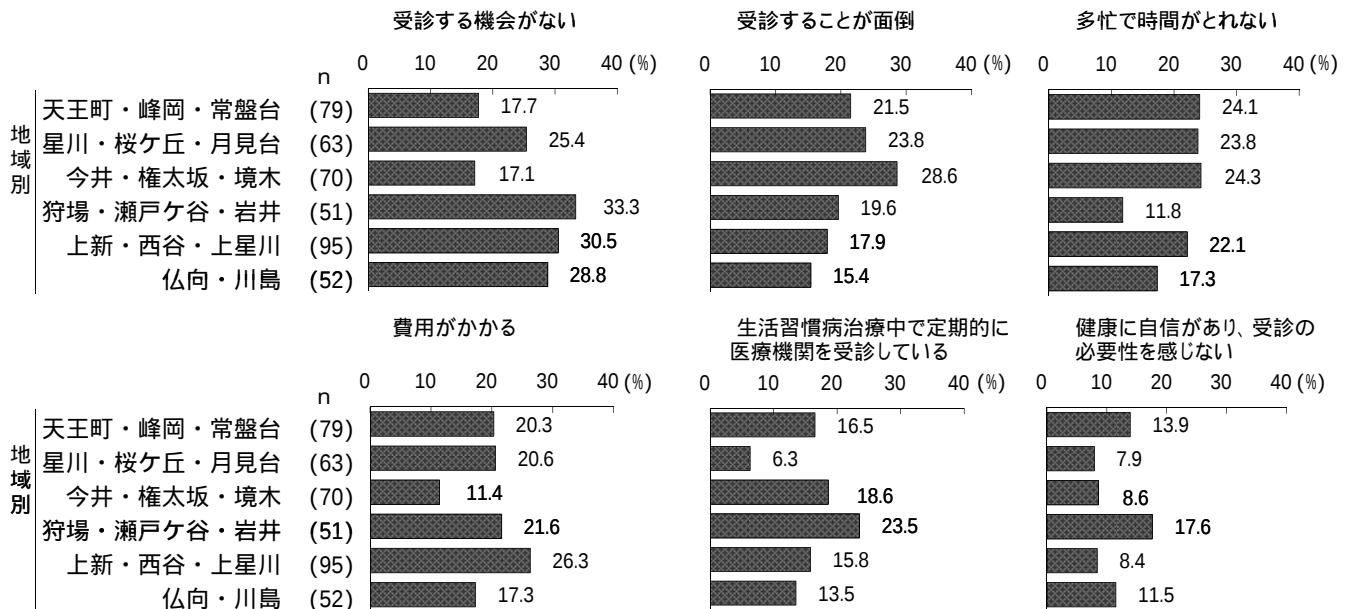
図表5-33 健康診断を受けていない理由(性別、上位6項目)



(地域別) 地域別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-34)

- ・「受診する機会がない」は、狩場・瀬戸ケ谷・岩井(33.3%)で高い。
- ・「受診することが面倒」は、今井・権太坂・境木(28.6%)で高い。
- ・「多忙で時間がとれない」は、狩場・瀬戸ケ谷・岩井(11.8%)で低い。
- ・「費用がかかる」は、今井・権太坂・境木(11.4%)で低い。
- ・「生活習慣病治療中で定期的に受診している」は、狩場・瀬戸ケ谷・岩井(23.5%)で高く、星川・桜ヶ丘・月見台(6.3%)で低い。

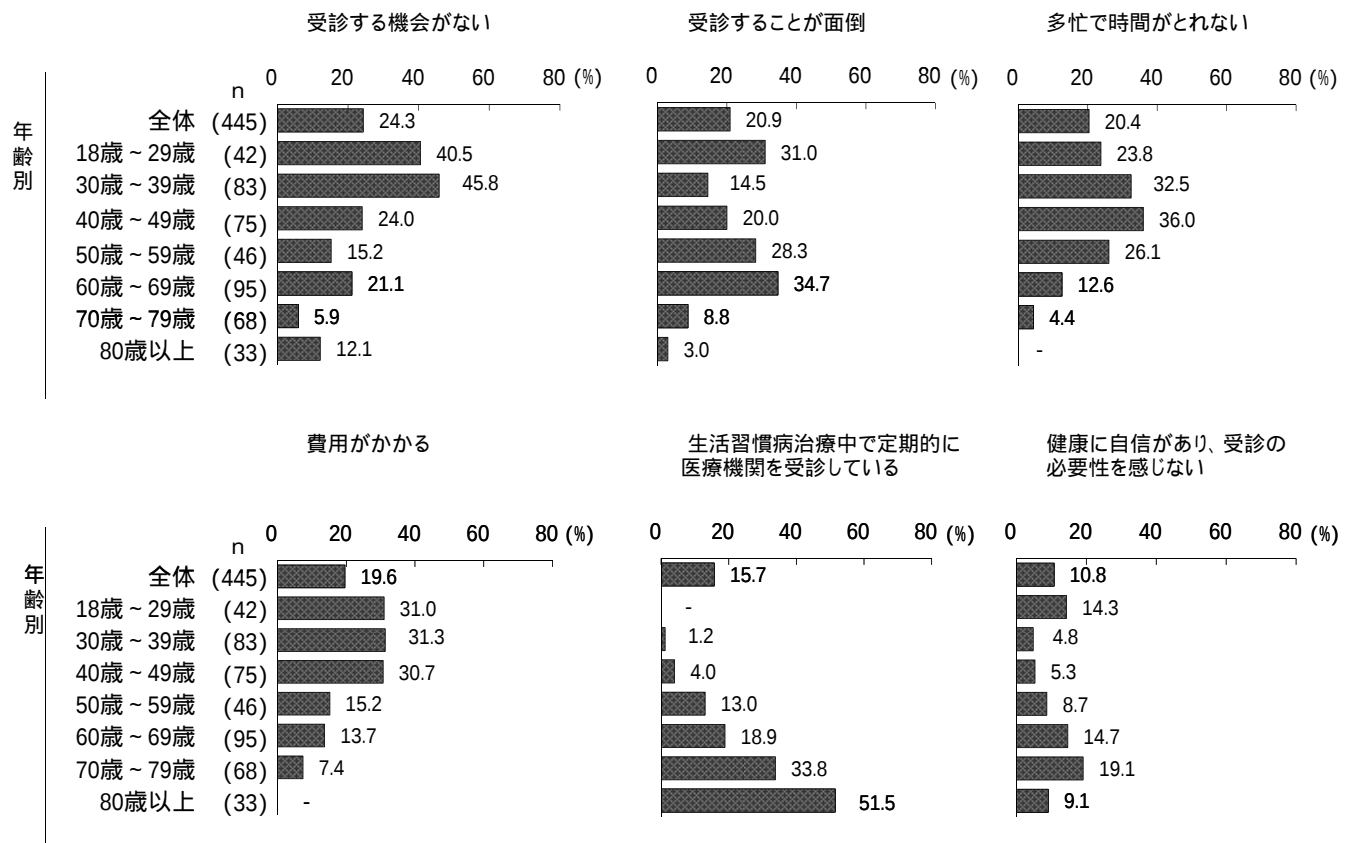
図表5-34 健康診断を受けていない理由(地域別、上位6項目)



(年齢別) 年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-35)

- ・「受診する機会がない」は、18歳～39歳で特に高く、70歳以上で特に低い。
- ・「受診することが面倒」は、18～29歳(31.0%)と60～69歳(34.7%)で高く、70歳以上で特に低い。
- ・「多忙で時間がとれない」は、30～49歳で高く、60歳以上で年齢が上がるにつれ低くなる。
- ・「費用がかかる」は、18歳～49歳で高く、50歳以上で年齢が上がるにつれ低くなる。
- ・「生活習慣病治療中で定期的に受診している」は、年齢が上がるにつれ高くなる。
- ・「自信があり、必要性を感じない」は、70～79歳(19.1%)で高い。

図表5-35 健康診断を受けていない理由(年齢別、上位6項目)



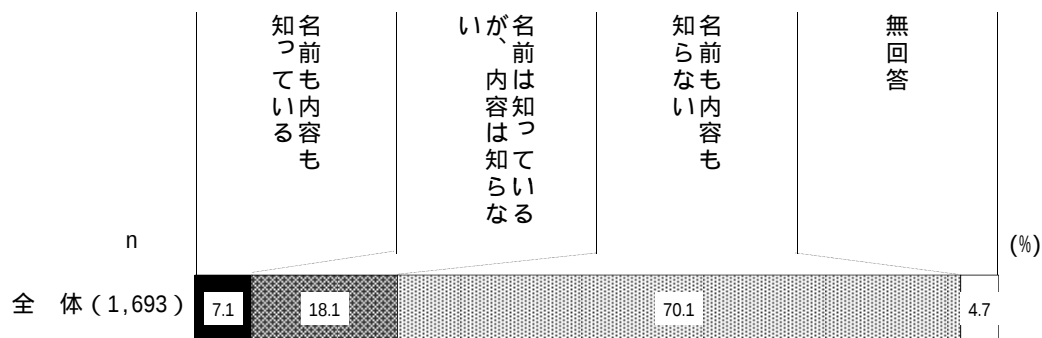
対象者の基数が少ないため、分析を「性×年齢別」ではなく「年齢別」で行っている。

5 - 1 0 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」の認知度

「名前も内容も知らない」が約7割

問 20 あなたは、「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画—保土ヶ谷ほっとなまちづくり*」を知っていますか。
(○は1つ)

図表5-36 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」の認知度



* 「保土ヶ谷区地域福祉保健計画—保土ヶ谷ほっとなまちづくり」とは、地域に住む全ての人々が、安心していきいきと暮らし続けることができるよう、地域の様々な人や団体がつながり、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などが連携して、地域のつながり・支えあいのあるまちづくりを目指した計画です。

具体的な内容については、同封の「保土ヶ谷ほっとなまちづくり（概要版）」や区ホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.yokohama.lg.jp/hodogaya/bunyabetu/fukusi/hotnamati/>

(全体) 3項目を上位から並べると以下となる。(図表5-36)

- ・「名前も内容も知らない」(70.1%)
- ・「名前は知っているが、内容は知らない」(18.1%)
- ・「名前も内容も知っている」(7.1%)

(前回調査(平成21年度)との比較) 傾向に大きな変化はないが、目立った増減は以下の箇所となる。(図表5-37)

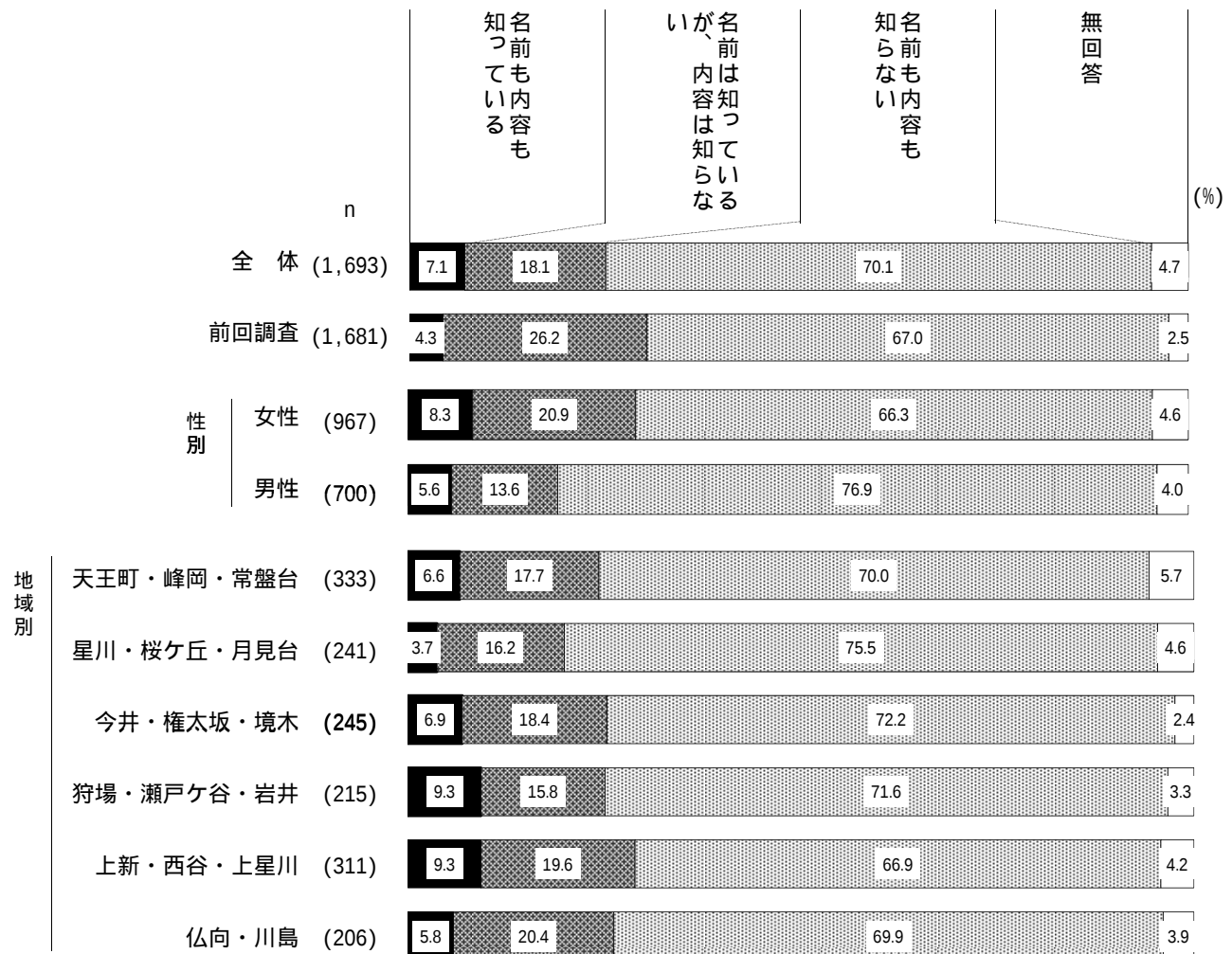
- ・「名前も内容も知っている」(7.1%)は、2.8ポイント高い。
- ・「名前は知っているが、内容は知らない」(18.1%)は、8.1ポイント低い。
- ・「名前も内容も知らない」(70.1%)は、3.1ポイント高い。

(性別) 性別にみて、女性の方が認知度が高い傾向である。差があるのは以下の箇所となる。(図表5-37)

- ・「名前も内容も知っている」は、女性(8.3%)で男性より2.7ポイント高い。
- ・「名前は知っているが、内容は知らない」は、女性(20.9%)で男性より7.3ポイント高い。
- ・「名前も内容も知らない」は、男性(76.9%)で女性より10.6ポイント高い。

(地域別) 地域別にみて、大きな差はみられない。(図表5-37)

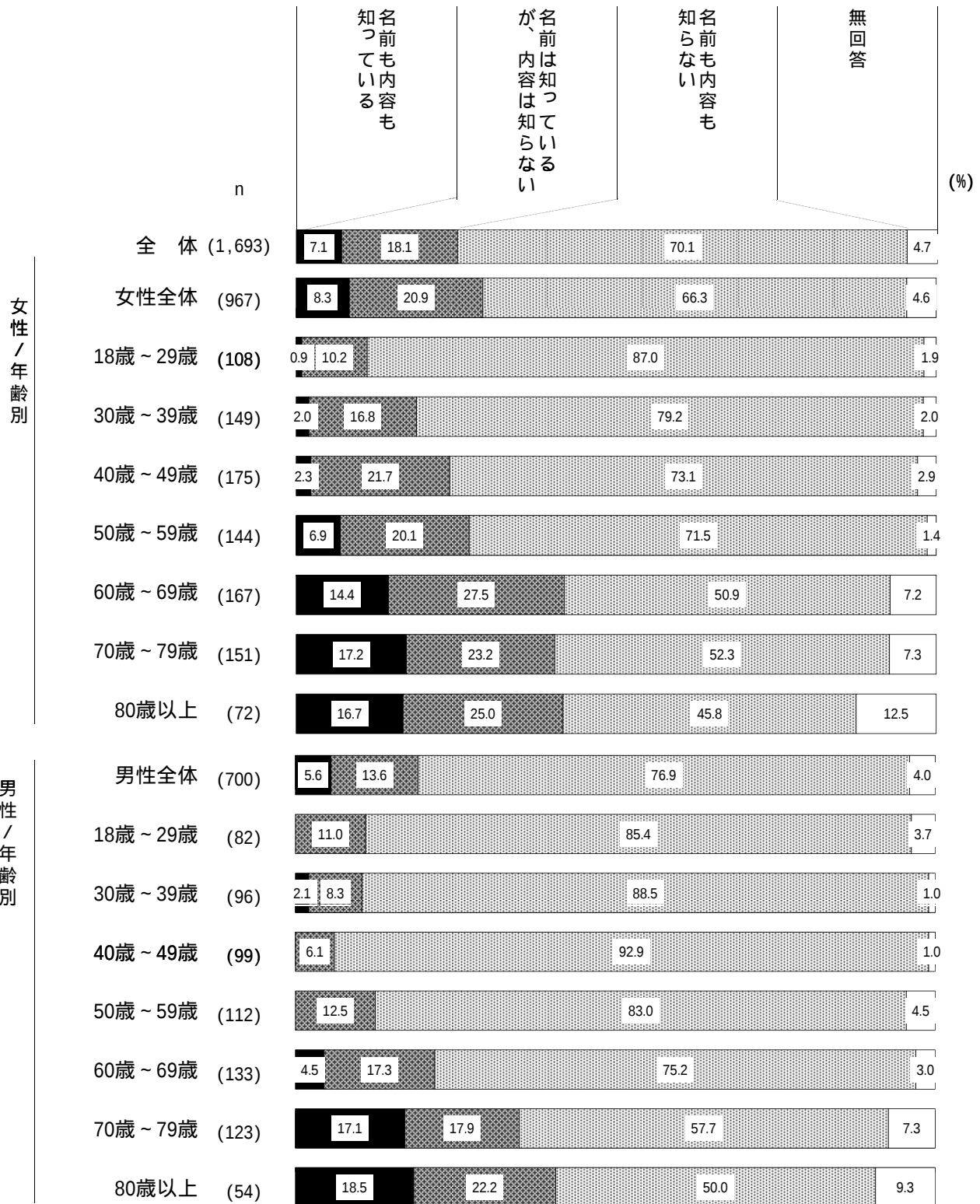
図表5-37 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」の認知度（前回調査・性別・地域別）



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-38)

- ・ 女性は年齢があがるにつれ認知度が高くなる傾向である。
- ・ 「名前も内容も知っている」は、女性60歳以上と男性70歳以上で高い。
- ・ 「名前は知っているが、内容は知らない」は、男女ともに60歳以上で高い。
- ・ 「名前も内容も知らない」は、女性18歳～39歳と男性18歳～59歳で特に高い。

図表5-38 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」の認知度（性×年齢別）

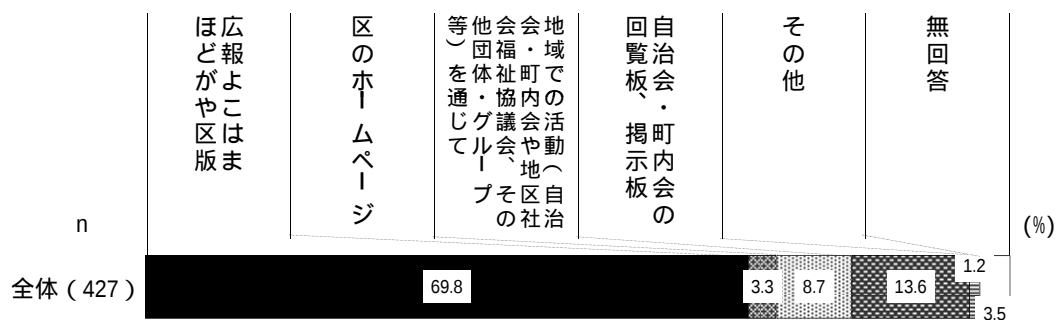


5 - 1 1 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」を どのような方法で知ったか

「広報よこはま ほ도가や区版」が約7割

問 20-1 問20で「1. 名前も内容も知っている」「2. 名前は知っているが、内容は知らない」と答えた方にか
がいます。どのような方法で「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」を知りましたか。(○は1つ)

図表5-39 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」をどのような方法で知ったか



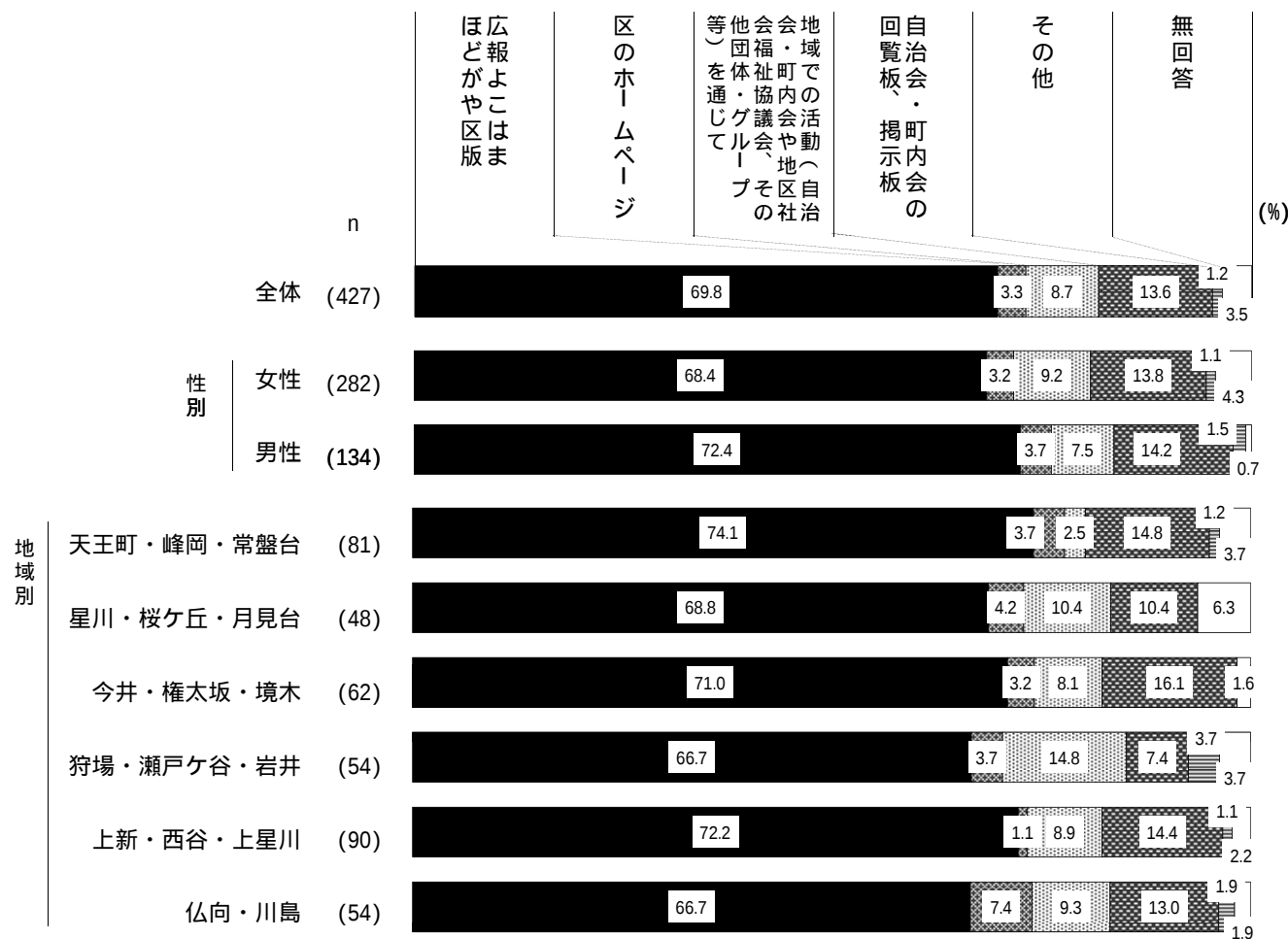
(全体) 4項目を上位から並べると以下となる。(図表5-39)

- ・「広報よこはま ほ도가や区版」(69.8%)
- ・「自治会・町内会の回覧板、掲示板的」(13.6%)
- ・「地域での活動を通じて」(8.7%)
- ・「区のホームページ」(3.3%)

(性別) 性別にみて、大きな差はみられない。(図表5-40)

(地域別) 地域別にみて、大きな差はみられない。(図表5-40)

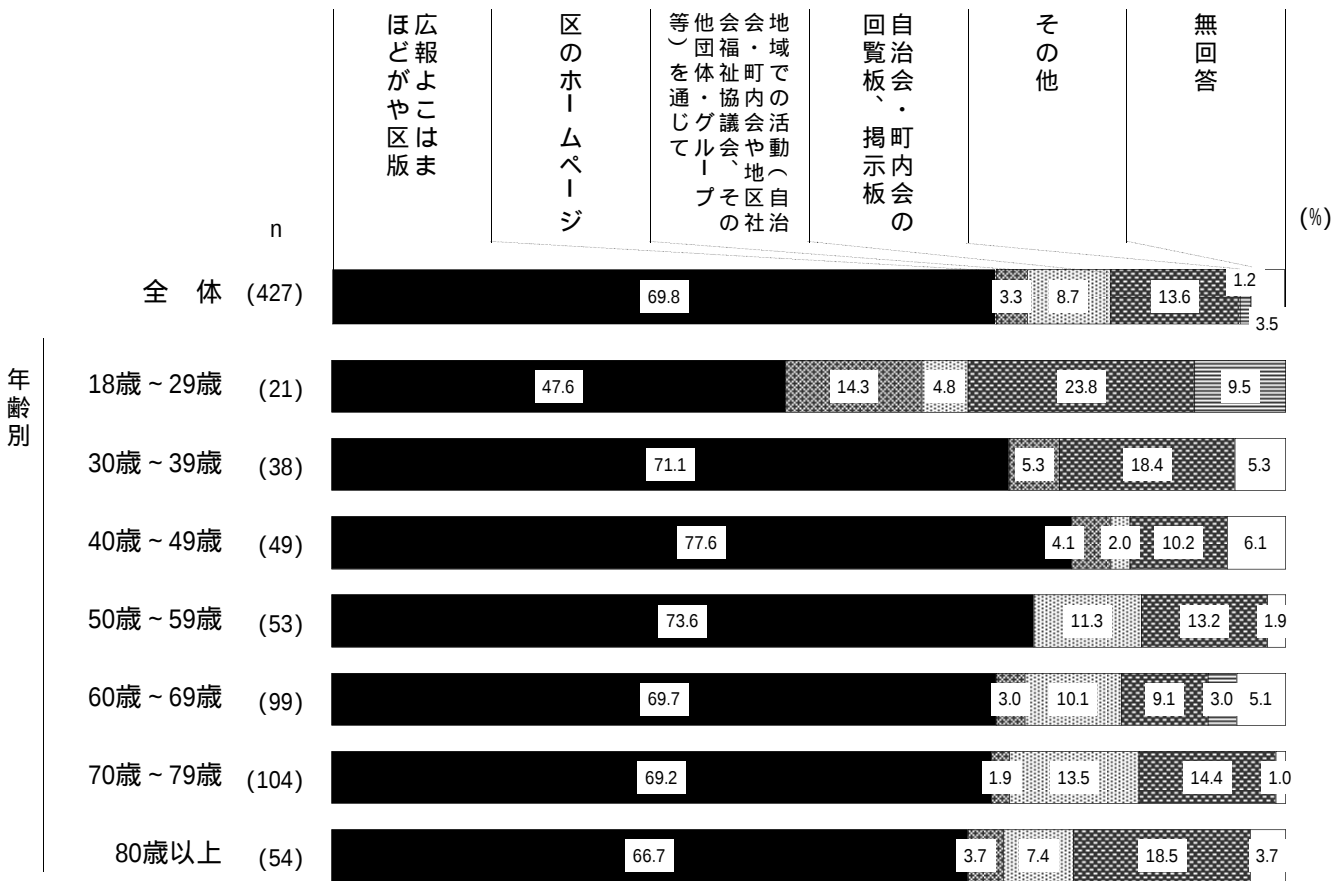
図表5-40 「第2期保土ケ谷区地域福祉保健計画」をどのような方法で知ったか（性別・地域別）



(年齢別) 年齢別にみると、以下のような差がある。(図表5-41)

- ・「広報よこはま ほどがや区版」は、40歳～49歳(77.6%)で高く、18歳～29歳(47.6%)で特に低い。
- ・「区のホームページ」は、18歳～29歳(14.3%)で特に高く、50歳～59歳で回答が無かった。
- ・「地域での活動を通じて」は、50歳以上で高い。
- ・「自治会・町内会の回覧板、掲示板」は、18歳～29歳(23.8%)と80歳以上(18.5%)で高く、60歳～69歳(9.1%)で低い。

図表5-41 「第2期保土ヶ谷区地域福祉保健計画」をどのような方法で知ったか（年齢別）



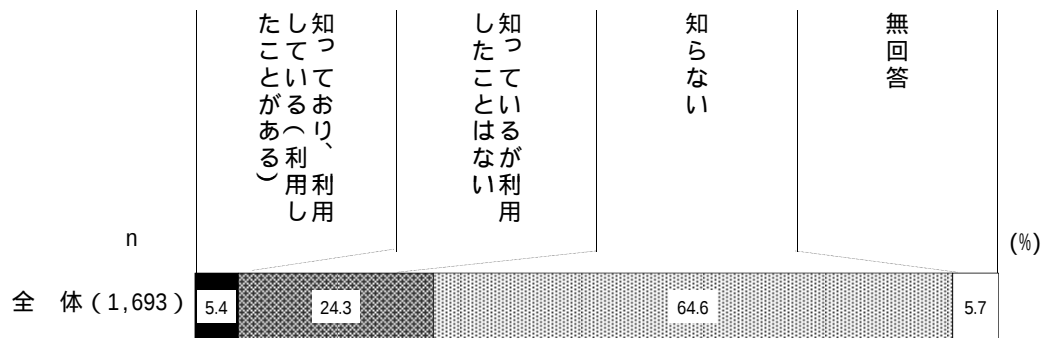
対象者の基数が少ないため、分析を「性×年齢別」ではなく「年齢別」で行っている。

5 - 1 2 福祉保健活動拠点の認知度・利用状況

「知らない」が6割半ば

問 21 あなたは、次の施設を知っていますか。また利用したことはありますか。(○は1つ)
1. 福祉保健活動拠点*

図表5-42 福祉保健活動拠点の認知度・利用状況



* 「福祉保健活動拠点」とは、区内で自主的に福祉・保健の活動を行っている団体などに、交流・打合せ・研修などの場としてご利用いただける施設です。「かるがも」(川辺町)の3階にあります。

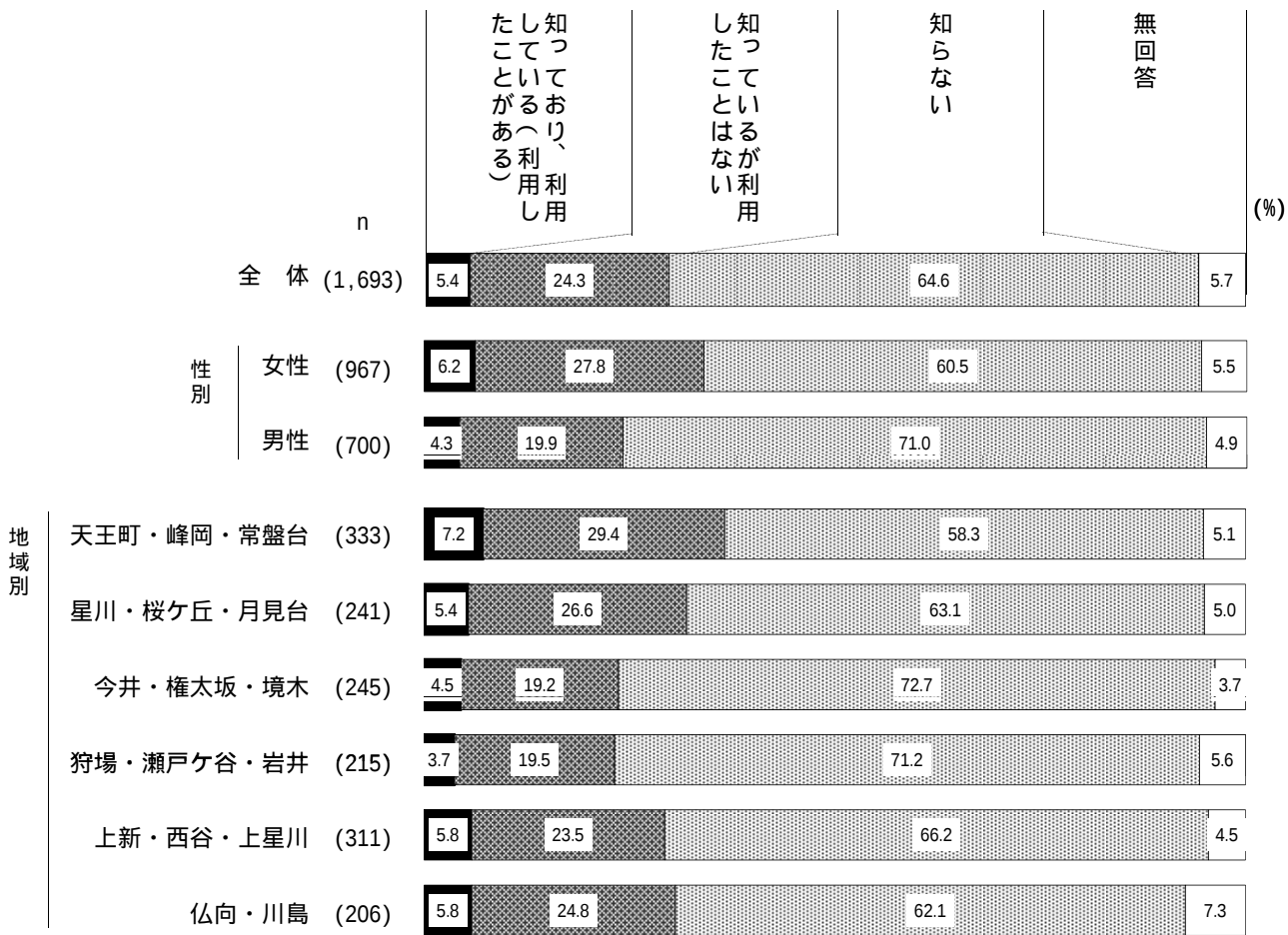
(全体) 3項目を上位から並べると以下となる。(図表5-42)

- ・ 「知らない」(64.6%)
- ・ 「知っているが利用したことはない」(24.3%)
- ・ 「知っており、利用している(利用したことがある)」(5.4%)

- (性別)** 性別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-43)
- ・女性の方が認知度(「知っており、利用している(利用したことがある)」
「知っているが利用したことはない」)が高い。
 - ・「知っており、利用している(利用したことがある)」は、女性(6.2%)で男性より1.9ポイント高い。
 - ・「知っているが利用したことはない」は、女性(27.8%)で男性より7.9ポイント高い。
 - ・「知らない」は、男性(71.0%)で女性より10.5ポイント高い。

(地域別) 地域別にみて、今井・権太坂・境木と狩場・瀬戸ヶ谷・岩井で、認知度が低い。(図表5-43)

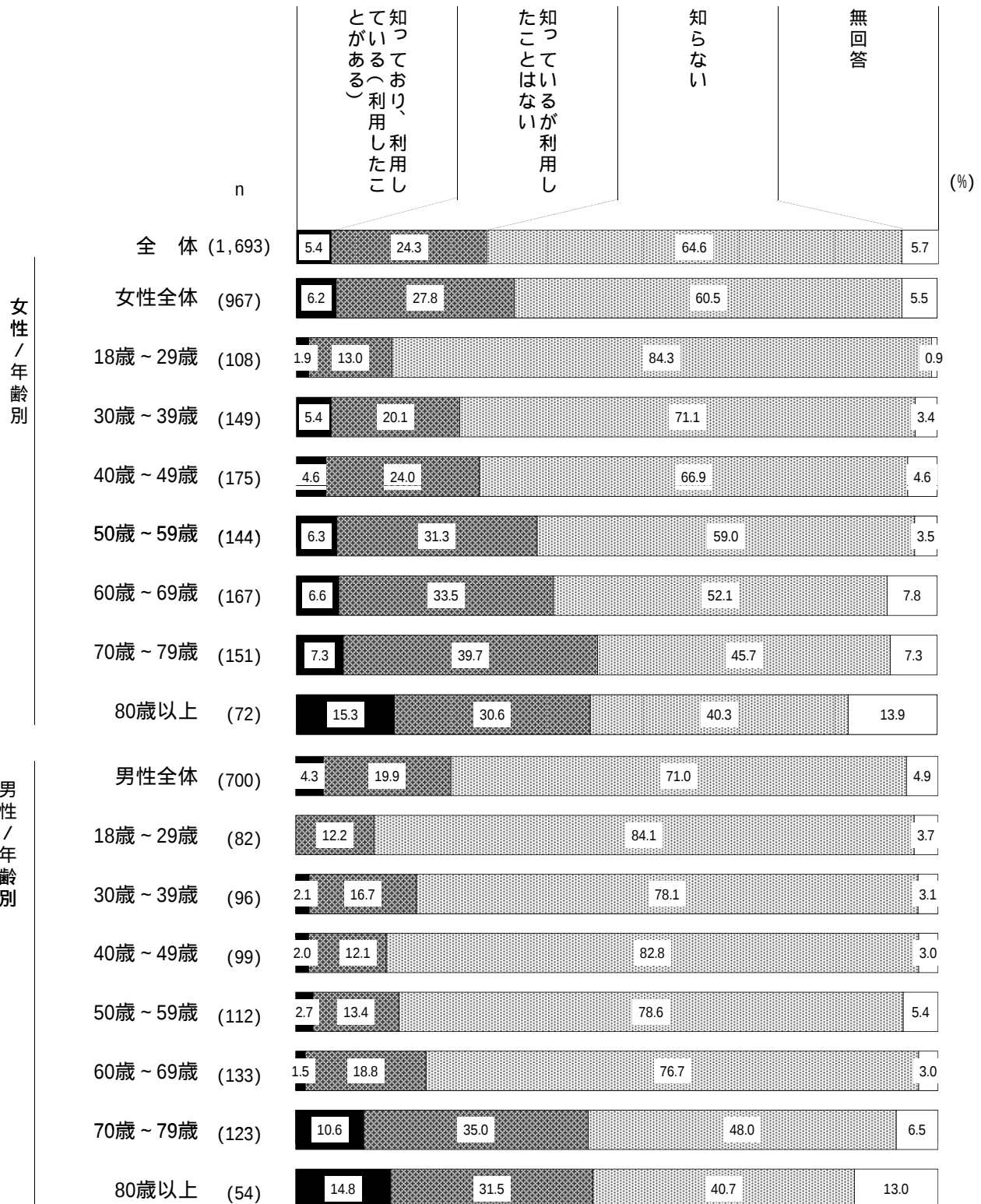
図表5-43 福祉保健活動拠点の認知度・利用状況(性別・地域別)



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-44)

- ・女性の方が認知度(「知っており、利用している(利用したことがある)」
「知っているが利用したことはない」)が高い。
- ・男性は18歳～69歳で認知度が低い。

図表5-44 福祉保健活動拠点の認知度・利用状況(性×年齢別)

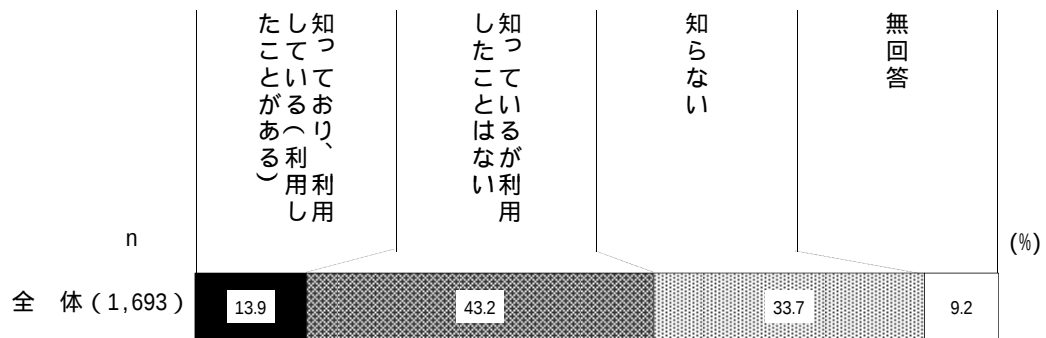


5 - 1 3 地域ケアプラザの認知度・利用状況

「知っているが利用したことはない」が4割前半

問 21 あなたは、次の施設を知っていますか。また利用したことはありますか。(○は1つ)
2. 地域ケアプラザ(今井、岩崎、上菅田、川島、常盤台、仏向、星川)

図表5-45 地域ケアプラザの認知度・利用状況



(全体) 3項目を上位から並べると以下となる。(図表5-45)

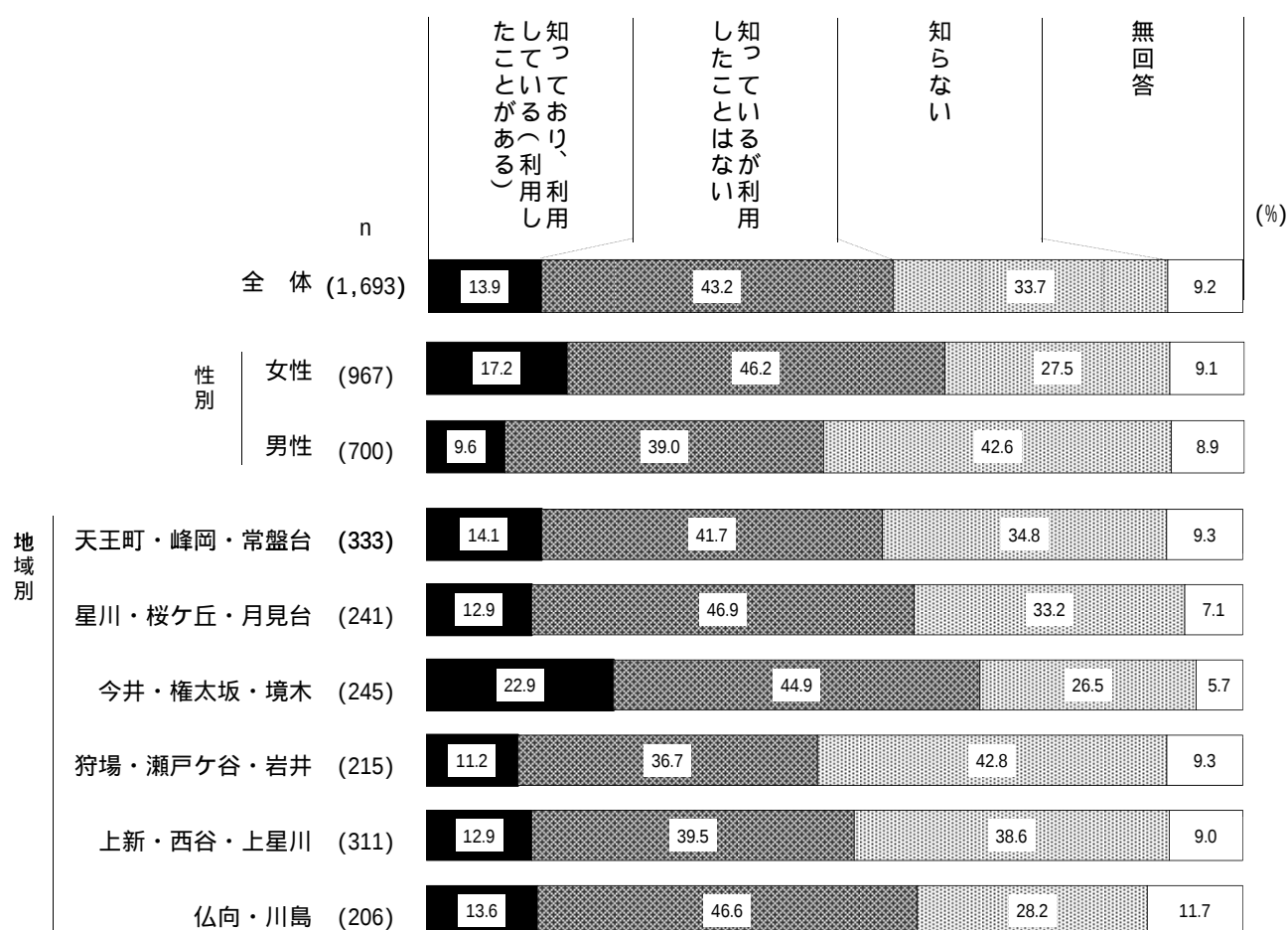
- ・「知っているが利用したことはない」(43.2%)
- ・「知らない」(33.7%)
- ・「知っており、利用している(利用したことがある)」(13.9%)

【性別】性別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-46)

- ・女性の方が認知度が高い。
- ・「知っており、利用している(利用したことがある)」は、女性(17.2%)で男性より7.6ポイント高い。
- ・「知っているが利用したことはない」は、女性(46.2%)で男性より7.2ポイント高い。
- ・「知らない」は、男性(42.6%)で女性より15.1ポイント高い。

【地域別】地域別にみて、認知度・利用状況が今井・権太坂・境木で高く、狩場・瀬戸ヶ谷・岩井で若干低い。他の地域は概ね平均的な傾向である。(図表5-46)

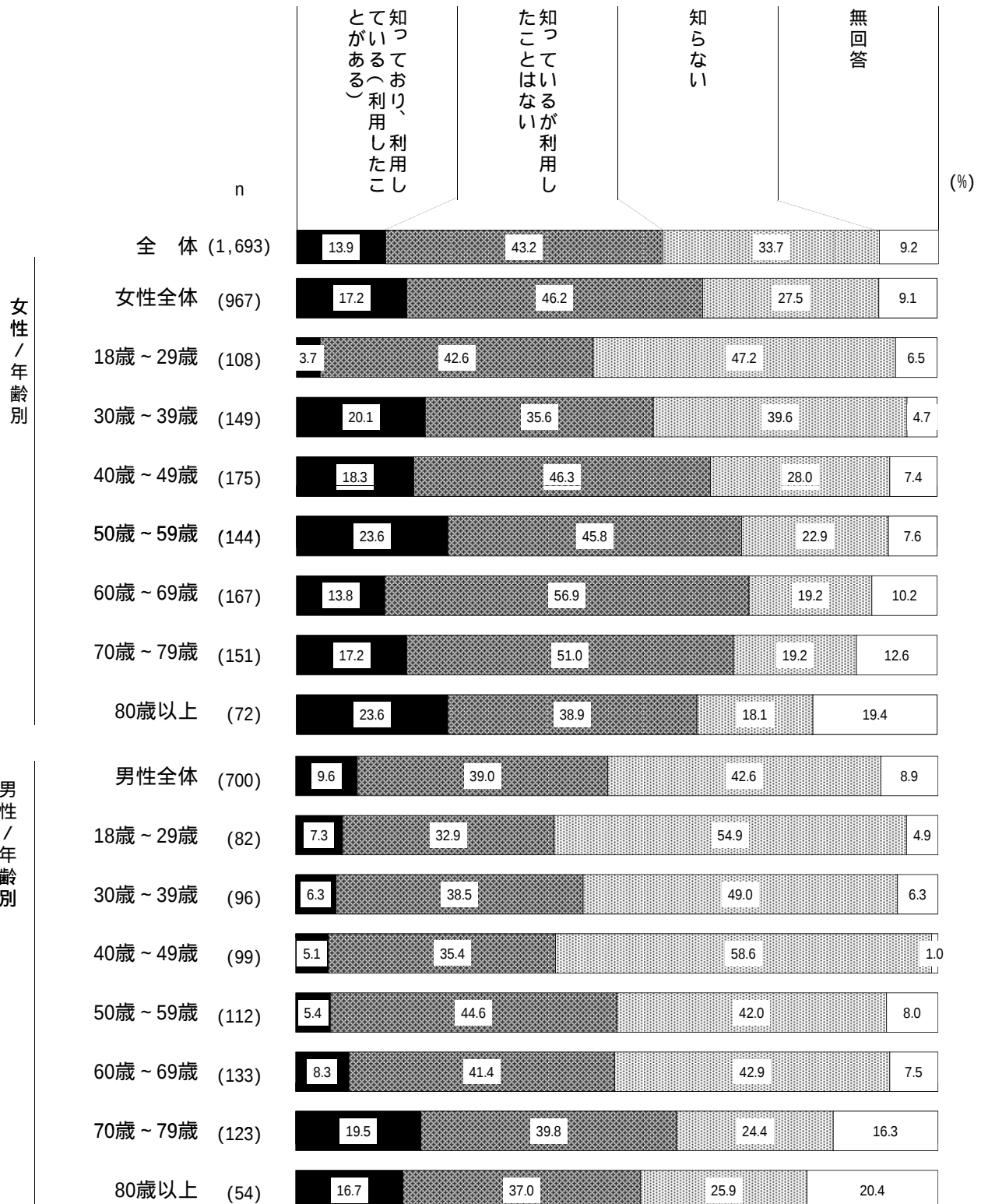
図表5-46 地域ケアプラザの認知度・利用状況(性別・地域別)



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみると、以下のような傾向がある。(図表5-47)

- ・「知っており、利用している(利用したことがある)」は、男性70歳以上で高く、女性18歳～29歳(3.7%)で特に低い。
- ・「知っているが利用したことはない」は、女性60歳～69歳(56.9%)で高い。
- ・「知らない」は、男女18歳～29歳と男性40歳～49歳(58.6%)で高い。

図表5-47 地域ケアプラザの認知度・利用状況(性×年齢別)

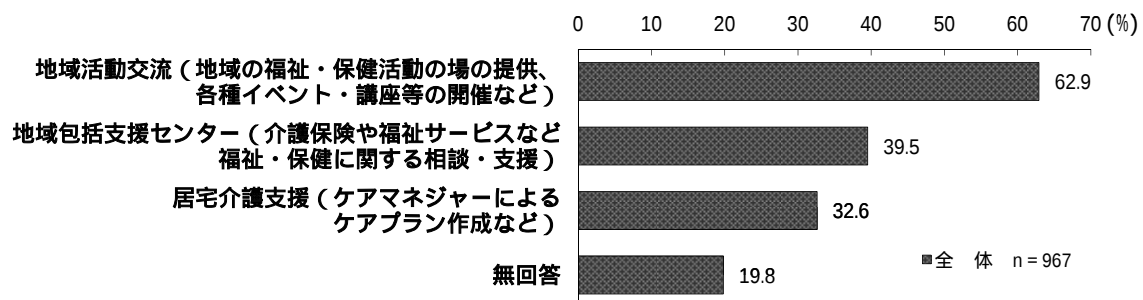


5 - 1 4 地域ケアプラザで行っている業務の認知度

「地域活動交流（地域の福祉・保健活動の場の提供、各種イベント・講座等の開催など）」が6割前半

問 21-1 問21で「1. 知っており、利用している（利用したことがある）」「2. 知っているが利用したことはない」と答えた方にうかがいます。地域ケアプラザで行っている次の業務について知っていますか。
(○はい/△はいいえ/×はどちらともいえない/□は回答しない)

図表5-48 地域ケアプラザで行っている業務の認知度(複数回答)



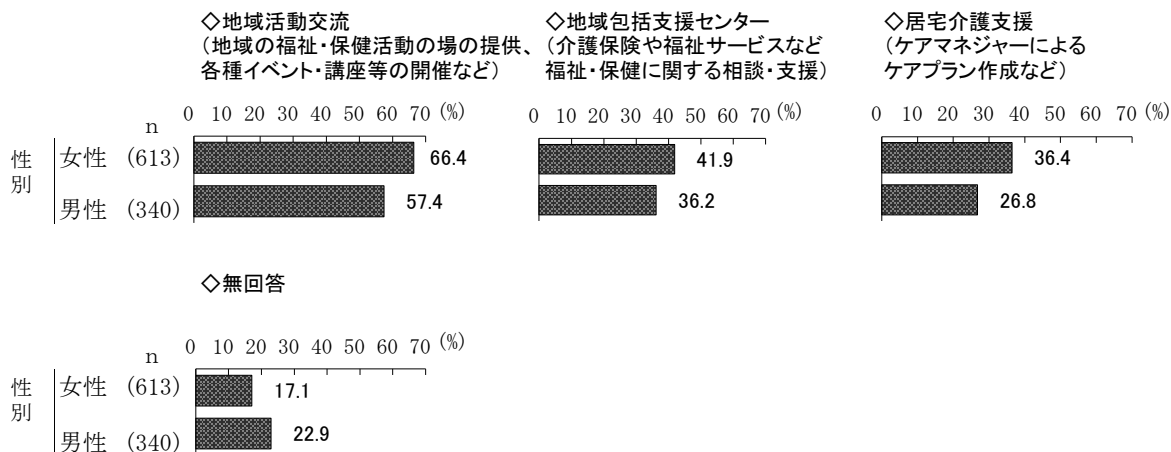
(全体) 上位3項目は以下となる。(図表5-48)

- ・「地域活動交流（地域の福祉・保健活動の場の提供、各種イベント・講座等の開催など）」(62.9%)
- ・「地域包括支援センター（介護保険や福祉サービスなど福祉・保健に関する相談・支援）」(39.5%)
- ・「居宅介護支援（ケアマネジャーによるケアプラン作成など）」(32.6%)

《性別》性別にみて、女性の方が認知度が高い傾向である。差があるのは以下の箇所となる。(図表5-49)

- ・「地域活動交流」は、女性(66.4%)で男性より9.0ポイント高い。
- ・「地域包括支援センター」は、女性(41.9%)で男性より5.7ポイント高い。
- ・「居宅介護支援」は、女性(36.4%)で男性より9.6ポイント高い。

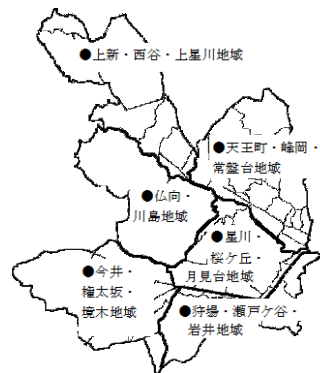
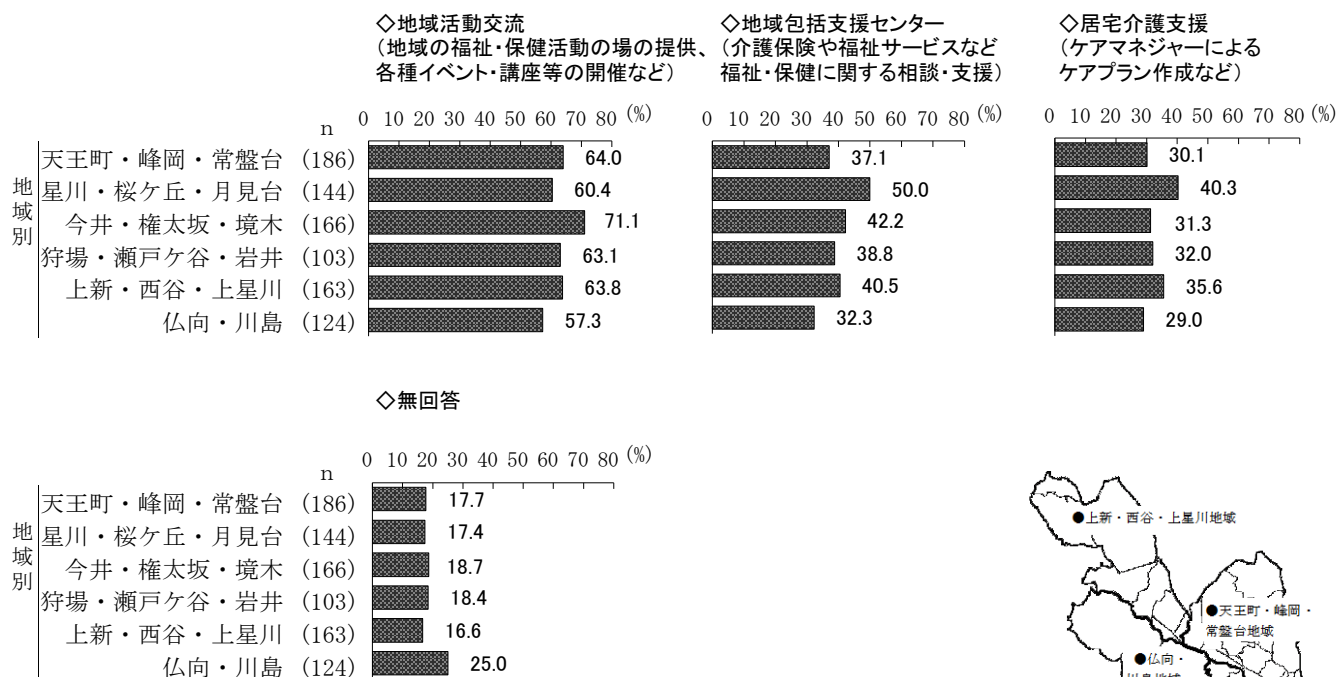
図表5-49 地域ケアプラザで行っている業務の認知度(性別)



《地域別》地域別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-50)

- ・「地域活動交流」は、今井・権太坂・境木(71.1%)で高く、仏向・川島(57.3%)で低い。
- ・「地域包括支援センター」は、星川・桜ヶ丘・月見台(50.0%)で高く、仏向・川島(32.3%)で低い。
- ・「居宅介護支援」は、星川・桜ヶ丘・月見台(40.3%)で高く、仏向・川島(29.0%)で低い。

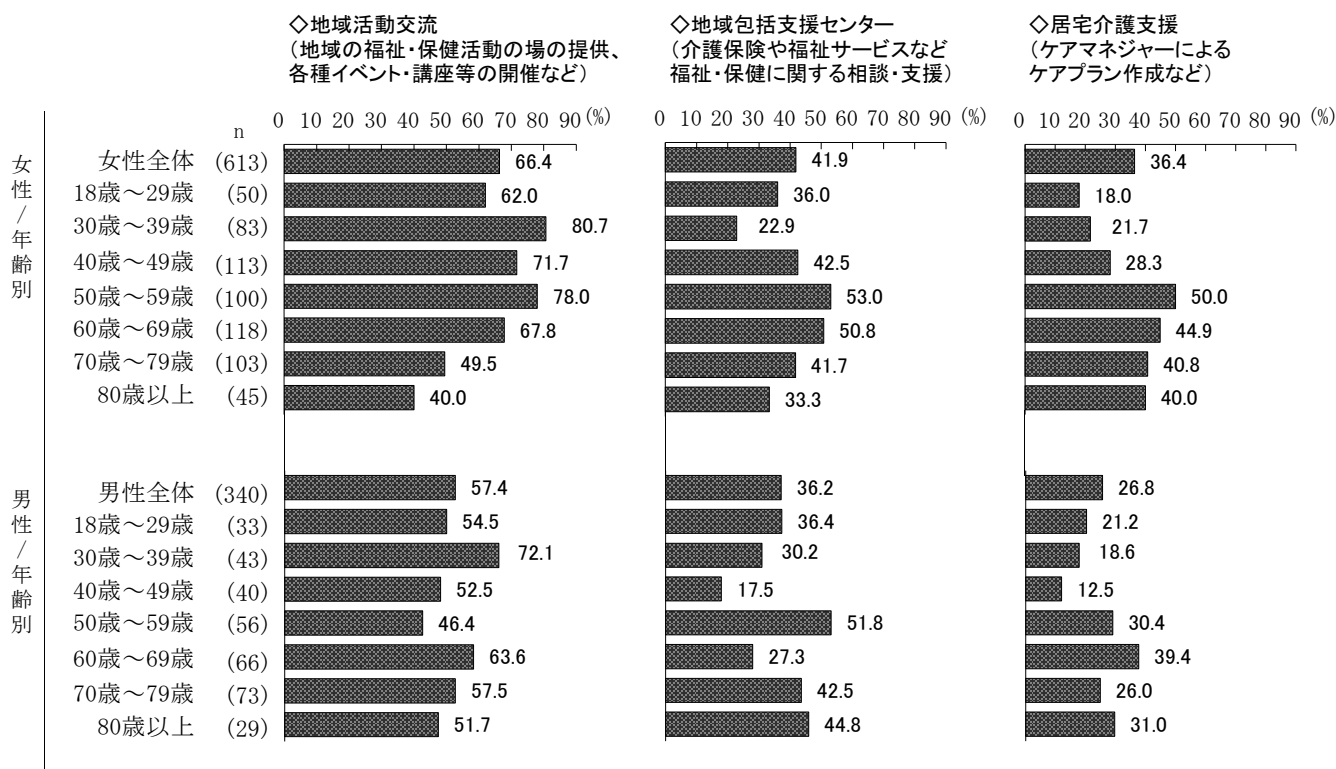
図表5-50 地域ケアプラザで行っている業務の認知度(地域別)



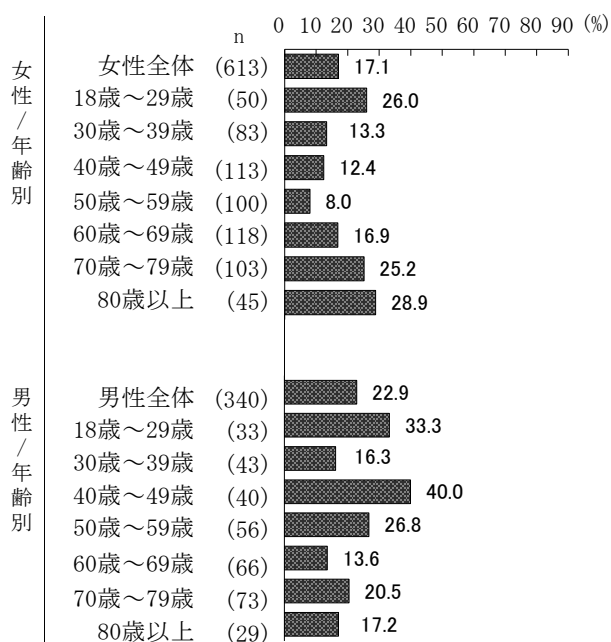
《性×年齢別》性別及び年齢別にみて、以下のような傾向がある。(図表5-51)

- ・「地域活動交流」は、女性30歳～59歳と男性30歳～39歳(72.1%)で特に高く、女性70歳以上と男性50歳～59歳(46.4%)で低い。
- ・「地域包括支援センター」は、女性50歳～69歳と男性50歳～59歳(51.8%)で特に高く、女性30歳～39歳(22.9%)と男性40歳～49歳(17.5%)で特に低い。
- ・「居宅介護支援」は、女性50歳以上と男性60歳～69歳(39.4%)で高く、女性18歳～49歳と男性30歳～49歳で低い。

図表5-51 地域ケアプラザで行っている業務の認知度(性×年齢別)



◇無回答

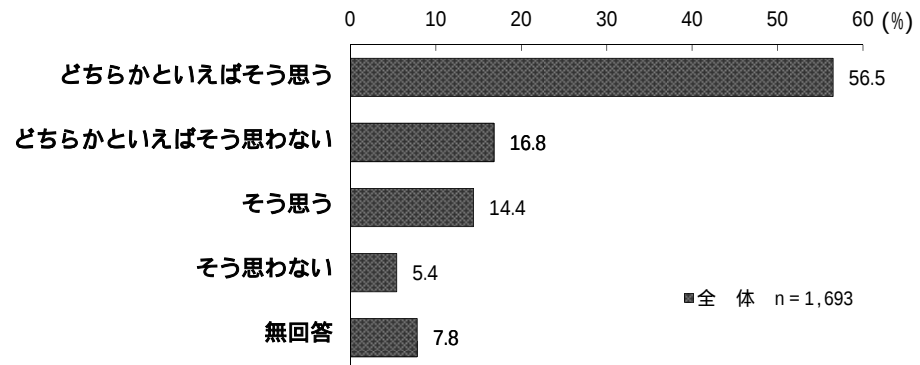


5 - 1 5 保土ケ谷区の子どもにとって安心・安全度

「どちらかといえばそう思う」が5割半ば

問 22 あなたは、保土ケ谷区が子どもにとって安心・安全で暮らしやすいまちだと思いますか。
(○はい/□でも)

図表5-52 保土ケ谷区の子供にとって安心・安全度(複数回答)

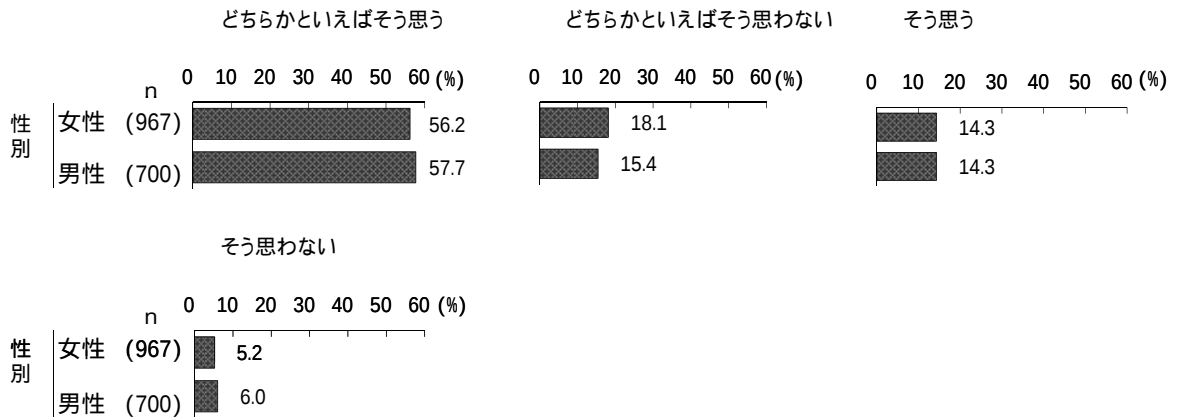


(全体) 上位4項目は以下となる。(図表5-52)

- ・「どちらかといえばそう思う」(56.5%)
- ・「どちらかといえばそう思わない」(16.8%)
- ・「そう思う」(14.4%)
- ・「そう思わない」(5.4%)

〔性別〕性別にみて、大きな差はみられない。(図表5-53)

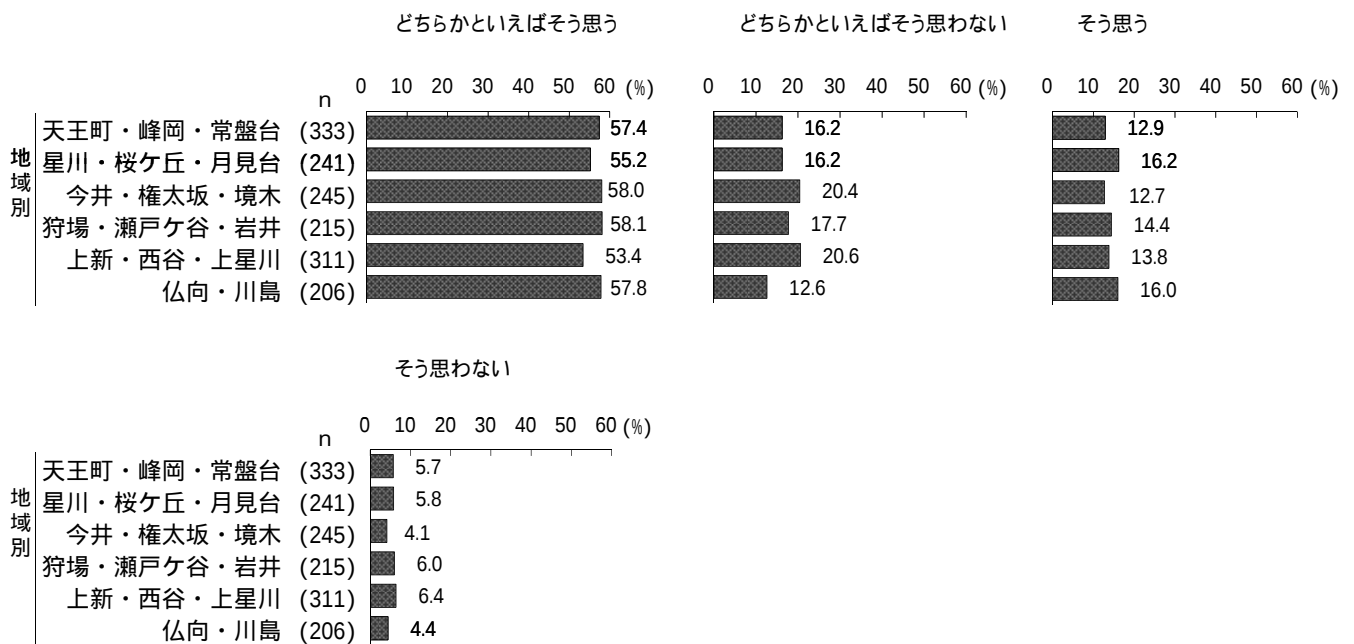
図表5-53 保土ケ谷区の子供にとって安心・安全度(性別)



〔地域別〕地域別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-54)

- ・「どちらかといえばそう思わない」は、今井・権太坂・境木(20.4%)と上新・西谷・上星川(20.6%)で高い。

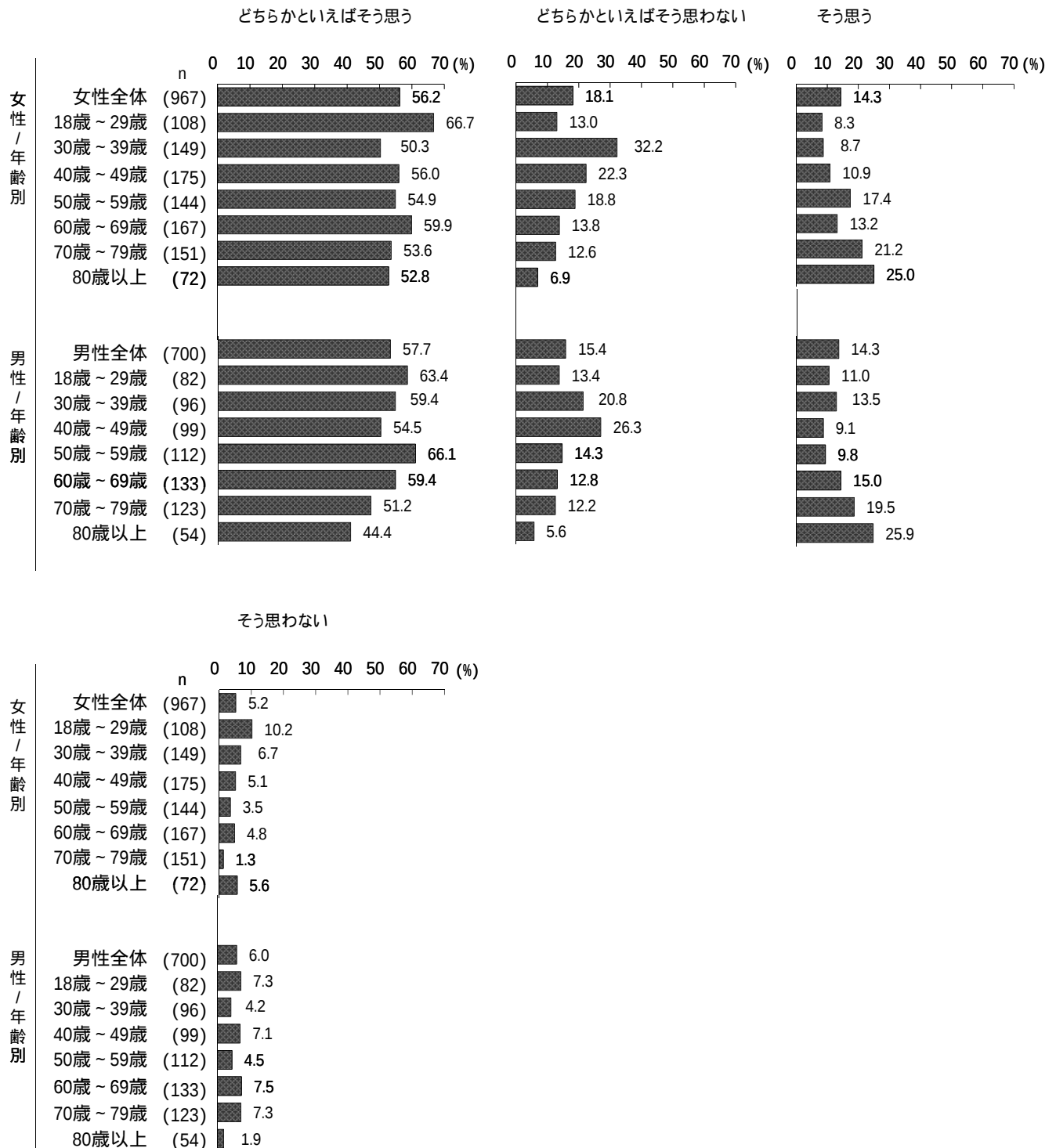
図表5-54 保土ケ谷区の子供にとって安心・安全度(地域別)



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみて、以下のような傾向がある。(図表5-55)

- ・「どちらかといえばそう思う」は、女性18歳～29歳(66.7%)と男性50歳～59歳(66.1%)で高く、男性80歳以上(44.4%)で低い。
- ・「どちらかといえばそう思わない」は、女性30歳～39歳(32.2%)と男性40歳～49歳(26.3%)で高く、男女とも80歳以上で低い。
- ・「そう思う」は、女性70歳以上と男性60歳以上で高い。
- ・「そう思わない」は、女性70歳～79歳(1.3%)と男性80歳以上(1.9%)で低い。

図表5-55 保土ケ谷区の子供にとって安心・安全度(性×年齢別)

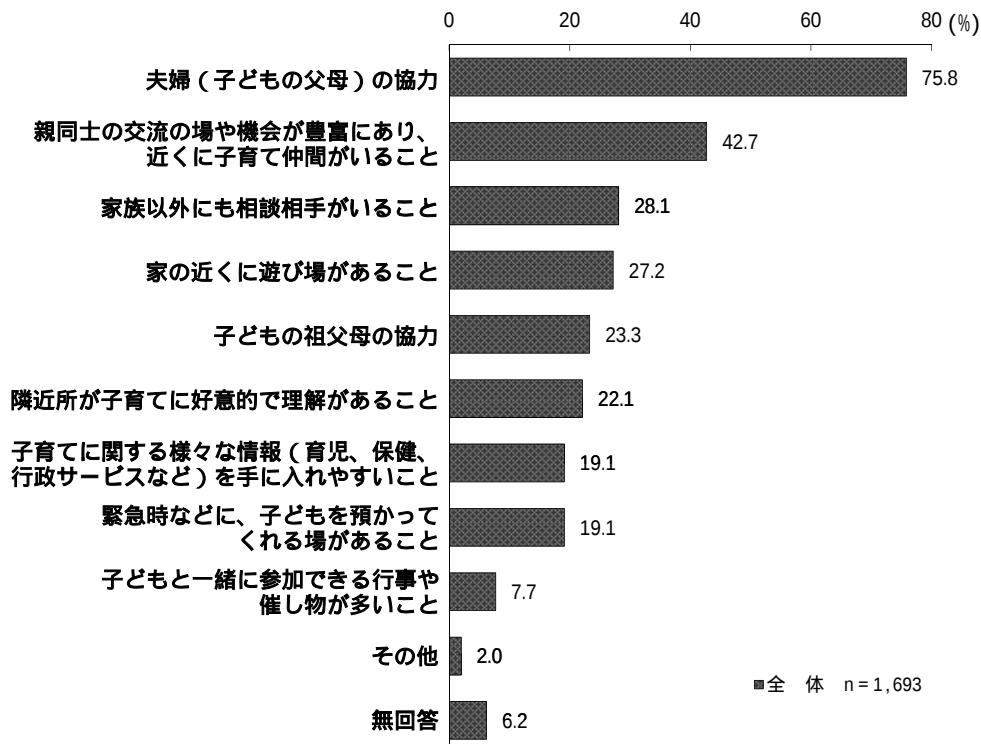


5 - 1 6 子育てをしていく中で、特に必要なこと

「夫婦(子どもの父母)の協力」が7割半ばで特に高い

問23 あなたは、子育てをしていく中で、特に必要なことは何だと思いますか。
(子育て中でない方は、一般的な考え方としてお答えください。) (○は3つまで)

図表5-56 子育てをしていく中で、特に必要なこと(複数回答)



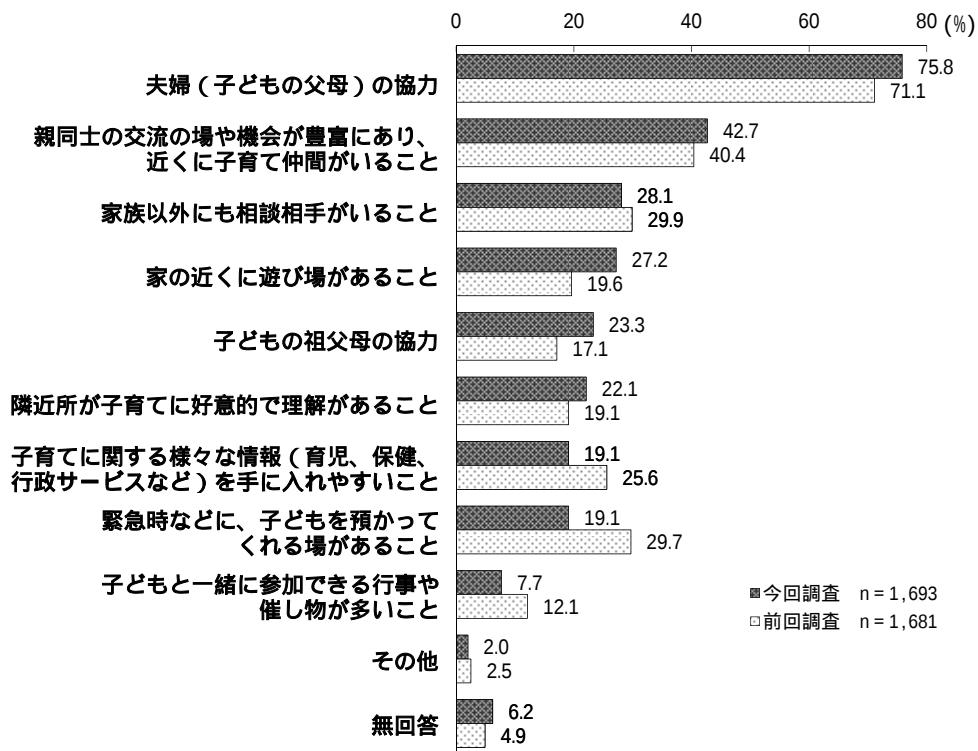
(全体) 上位6項目は以下となる。(図表5-56)

- ・「夫婦(子どもの父母)の協力」(75.8%)
- ・「親同士の交流の場や機会が豊富にあり、近くに子育て仲間がいること」(42.7%)
- ・「家族以外にも相談相手がいること」(28.1%)
- ・「家の近くに遊び場があること」(27.2%)
- ・「子どもの祖父母の協力」(23.3%)
- ・「隣近所が子育てに好意的で理解があること」(22.1%)

〔前回調査(平成21年度)との比較〕 差があるのは以下の箇所となる。(図表5-57)

- ・「夫婦（子どもの父母）の協力」は、4.7ポイント増加している。
- ・「家の近くに遊び場があること」は、7.6ポイント増加し、6 番目(19.6%)から 4 番目(27.2%)に上がった。
- ・「子どもの祖父母の協力」は、6.2ポイント増加し、8 番目(17.1%)から 5 番目(23.3%)に上がった。
- ・「隣近所が子育てに好意的で理解があること」は、3.0ポイント増加し、7 番目(19.1%)から 6 番目(22.1%)に上がった。
- ・「子育てに関する様々な情報を手に入れやすいこと」は、10.6ポイント減少し、5 番目(25.6%)から 7 番目(19.1%)に下がった。
- ・「緊急時などに、子どもを預かってくれる場があること」は、6.5ポイント減少し、4 番目(29.7%)から 8 番目(19.1%)に下がった。
- ・「子どもと一緒に参加できる行事や催し物が多いこと」は、4.4ポイント減少している。

図表5-57 子育てをしていく中で、特に必要なこと(前回調査との比較)

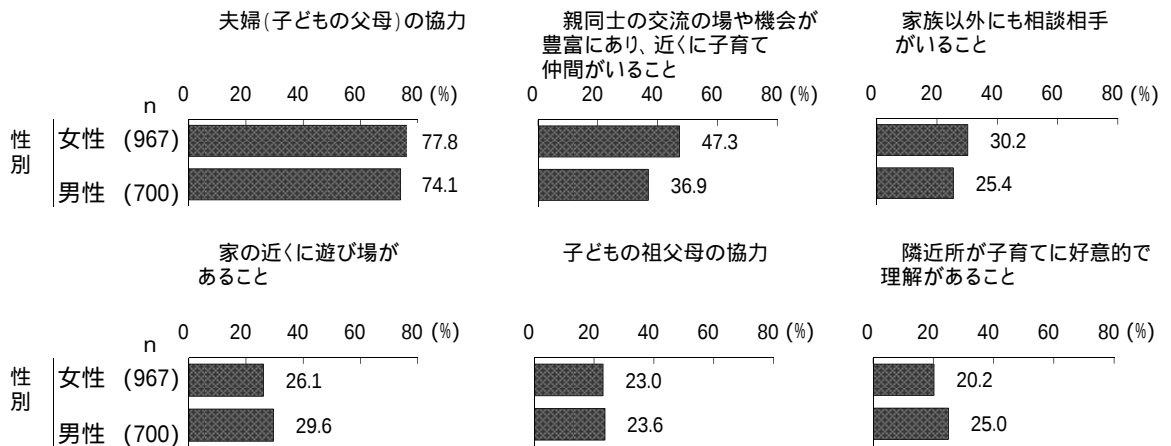


上位6項目について

(性別) 性別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-58)

- ・「親同士の交流の場や機会が豊富にあり、近くに子育て仲間がいること」は、女性(47.3%)で男性より10.4ポイント高い。

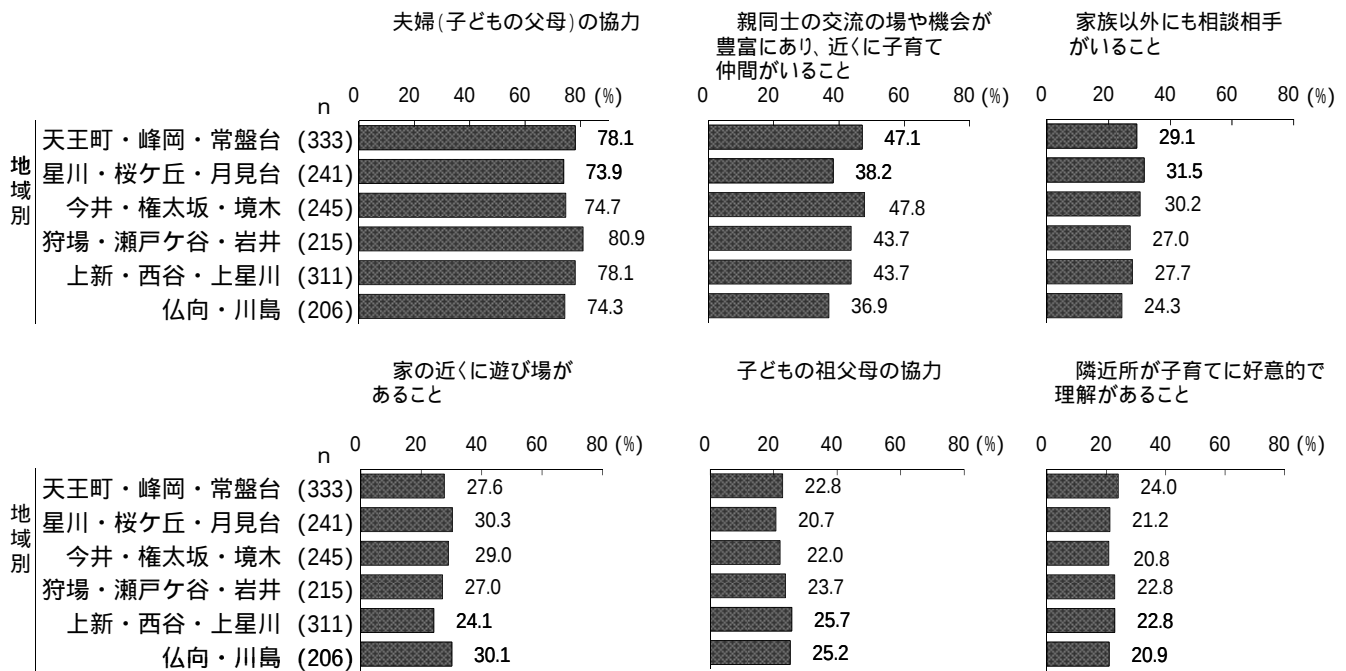
図表5-58 子育てをしていく中で、特に必要なこと(性別、上位6項目)



(地域別) 地域別にみて、差があるのは以下の箇所となる。(図表5-59)

- ・「夫婦(子どもの父母)の協力」は、狩場・瀬戸ヶ谷・岩井(80.9%)で高い。
- ・「親同士の交流の場や機会が豊富にあり、近くに子育て仲間がいること」は、仏向・川島(36.9%)で低い。

図表5-59 子育てをしていく中で、特に必要なこと(地域別、上位6項目)



(性×年齢別) 性別及び年齢別にみて、以下のような傾向がある。(図表5-60)

- ・「夫婦(子どもの父母)の協力」は、女性18歳～29歳(86.1%)で高く、男女とも80歳以上で低い。
- ・「親同士の交流の場や機会が豊富にあり、近くに子育て仲間がいること」は、女性50歳～69歳で高く、女性80歳以上(34.7%)で低い。
- ・「家族以外にも相談相手がいること」は、男性80歳以上(9.3%)で特に低い。
- ・「家の近くに遊び場があること」は、男女とも80歳以上で低い。
- ・「子どもの祖父母の協力」は、男性80歳以上(44.4%)で特に高い。
- ・「隣近所が子育てに好意的で理解があること」は、男性30歳～49歳で高く、男性80歳以上(18.5%)で低い。

図表5-60 子育てをしていく中で、特に必要なこと(性×年齢別、上位6項目)

